

専門科目の目次 (平成29年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(14E~17E)の科目区別に編成されています。13E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

経済学科

政治経済学Ⅱ	1	社会政策B	2
財政政治学B	3	金融論Ⅱ	4
計量経済学Ⅱ	5	アジア経済論	7
数理経済学	8	公共経済学Ⅰ	9
公共経済学Ⅱ	10	福祉経済学Ⅰ	12
福祉経済論Ⅱ	14	国際経済学B	16
金融政策Ⅰ	18	金融政策Ⅱ	19
経済統計A	20	金融統計B	21

経営システム学科

人的資源管理論A	22	経営史	23
環境システム論	24	商品システム論	25
経営戦略論B	27	マーケティング論B	28
経営統計学	29	人的資源管理論B	30
商品実験	31	経営財務論	32
国際経営論	33	中小企業経営論	35
株式会社社会計	36	監査論	37
財務会計論A	38	(特) エンターテイメント・マネジメント	40
(特) 実践で学ぶCS・マーケティングA	41	(特) 実践で学ぶCS・マーケティングB	43
(特) Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies	45		

地域社会システム学科

異文化間コミュニケーション論	46	文化人類学	47
ヨーロッパ文化論	48	ヨーロッパ思想史	49
アジア社会論	50	アジア経済論	7
現代フランス研究	51	中国文化論	53
観光と政治	55	芸術観光論	56
観光英語	57	外国語演習Ⅱ(英語)	58
外国語演習Ⅱ(ドイツ語)	59	外国語演習Ⅱ(フランス語)	60
外国語演習Ⅱ(中国語)	61	外国語会話Ⅰ(ドイツ語)	62
外国語会話Ⅰ(フランス語)	63	外国語会話Ⅰ(韓国語)	64
外国語会話Ⅱ(ドイツ語)	65	外国語会話Ⅱ(中国語)	66
外国語会話Ⅲ(ドイツ語)	67	ビジネス英語Ⅰ	68
ビジネス英語Ⅱ	69	(特) 地域研究論	70
(特) 栗林公園ゼミナール	72	地域調査法	73

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312032) 政治経済学Ⅱ Political Economy Ⅱ	科目区分	時間割 後期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅰ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 「政治経済学Ⅰ」を踏まえたうえで、資本主義の原理についての発展的な講義を行う。マルクス経済学の特徴は、資本主義的生産が1回かぎりのものではなく、繰り返しの過程であることを重視するところにある。本講義では、はじめに、資本主義において、社会全体がいかんして繰り返し再生産され、さらには、発展していくかを明らかにする。次いで、「政治経済学Ⅰ」では単純化のために捨象しておいた資本間の競争という要因を導入し、市場を通じて社会的再生産が編成される仕組みを説明する。併せて、資本の競争を補足する諸機構、すなわち、地代、商業資本、信用機構についても解説する。最後に、長期的な動態に目を移し、資本主義経済の発展が、好況→恐慌→不況→好況…というダイナミズムを描くことを示す。			
授業の目的 「政治経済学Ⅰ」では、資本主義の基本的な仕組みを把握することに主眼が置かれたが、この講義では、資本主義経済の全体像に一步一步近づいていくことになる。「政治経済学Ⅰ」と「政治経済学Ⅱ」を併せて学ぶことで、現実経済を分析するための目が養われることが期待できる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 再生産表式を導き出すことができる。 資本主義的市場における価格決定メカニズムを説明することができる。 地代、商業資本、信用の基本的概念を説明することができる。 景気循環の原理的メカニズムを説明することができる。 			
成績評価の方法と基準 小テスト(2回)と期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト各10点、期末試験80点とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 板書および口述筆記による。 0. ガイダンス (1回) 1. 資本の蓄積 (1回) 2. 再生産表式 (2回) 3. 利潤 (3回) 4. 地代 (2回) 5. 商業資本 (1回) 6. 信用機構 (3回) 7. 景気循環 (2回) 期末試験			
【自学自習について】 自筆ノートおよび授業後web上に掲載する講義概要に基づく復習が中心となる。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は初回時に紹介する。			
オフィスアワー 初回時に指定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義は「政治経済学Ⅰ」の内容を前提としている。履修希望者は、「政治経済学Ⅰ」を必ず履修しておくこと。			

ナンバリングコード B3ECN-badE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312132) 社会政策B Social Policy B	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 badE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目	社会政策A	
	履修推奨科目	経済政策、財政学、福祉経済論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この講義は、社会保険の基本的な仕組みを概説する。とりわけ保険事故と保険給付との対応関係を重点的に解説する。そうすることで社会保険を身近なものに感じてもらうことが狙いである。そして年金についてもその理解を深めるために、年金額の計算に習熟してもらうつもりである。			
授業の目的 社会政策とは、「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会保険の基本構造、とりわけ年金制度の仕組みに習熟することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会保険の基本を理解し、身近なものとして実感できるようになる。 2. 年金額の計算をつうじて年金制度への正しい理解を獲得する。			
成績評価の方法と基準 宿題(練習問題)、期末試験に基づき総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
口述筆記と板書による。 ガイダンス……………(1) I 社会保険の概要 1. 狭義の社会保険……………(2～4) 2. 労働保険……………(5～8) II 年金 1. 老齢基礎年金……………(9～10) 2. 老齢厚生年金……………(11～12) 3. 遺族年金……………(13～14) まとめ……………(15) 日本年金機構・高松西年金事務所による講演のほか、授業の進行に合わせて現在の社会問題に関連するビデオを鑑賞する。授業の理解度を確認するために練習問題等の宿題を課すので、自学自習のきっかけとして積極的に活用すること。			
教科書・参考書等 使用しない。 棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣、『図解 わかる年金』新星出版社、適宜、指示する。			
オフィスアワー 火曜3時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 年金計算には電卓が必須である。各自、用意しておくこと。			

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312142) 財政学B Public Finance B	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目	財政学A	
	履修推奨科目	経済学入門	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として地方財政論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の地方公共団体の歳入および歳出の仕組みを一通り教える。例えば、地方税は地公共団体が自ら徴収するが、地方譲与税、地方交付税、国庫支出金は国が徴収して地方公共団体に配付する。また、地方債は原則として投資的経費にしか充当できない。なお、この講義は経済学の基礎的知識を前提にする。			
授業の目的 地方財政に関する主要な制度を理解する（DPの「知識・理解」に対応）と共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようにする（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 地方財政に関する主要な制度を説明できる。 (2) 地方財政に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。			
成績評価の方法と基準 期末課題および期末試験。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業方法】 資料を配付し、板書で補足する。 【授業計画】 (1) 地方公共団体 (2) 財政指標 (3) 歳入 (4) 地方税Ⅰ (5) 地方税Ⅱ (6) 地方税Ⅲ (7) 地方税Ⅳ (8) 地方譲与税 (9) 地方交付税Ⅰ (10) 地方交付税Ⅱ (11) 国庫支出金 (12) 地方債 (13) 歳出Ⅰ (14) 歳出Ⅱ (15) まとめ			
教科書・参考書等 なし。			
オフィスアワー 月曜日 3時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語厳禁。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312152) 金融論Ⅱ Monetary Economics Ⅱ	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論Ⅰ	
	履修推奨科目	金融論Ⅰ、金融政策Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、教科書に沿って、大きく、金融機関と金融市場、金融のマクロ的側面について学ぶ。具体的には、様々な金融市場、金融仲介機関以外の金融機関、資金循環と金融システム、金融政策と経済の実物面・金融面、金融システムの問題と金融危機、金融制度と公的介入・プルーデンス政策などについて学ぶ。適宜、世間で話題となっているホットトピックを「現実の金融問題」として紹介する。			
授業の目的 ・金融機関と金融市場を理解する。 ・金融のマクロ的側面を理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・金融機関と金融市場を説明できる。 ・金融のマクロ的側面を説明できる。			
成績評価の方法と基準 中間試験94点・期末試験94点、感想文12点の合計200点満点で評価する（ただし中間試験を受けていても期末試験を放棄した場合は成績評価の対象とはしない）。定期試験では、教科書からの出題は、重要語句や重要な論点を理論的に自分の言葉で説明できることなどを中心に要求する。現実の金融問題からの出題は、その出来事の流れを理解していること、またそれらと教科書の内容との関連性を説明できることなどを要求する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に教科書の要点を板書しながら説明する。現実の金融問題については、ビデオやパワーポイントで説明し、学生に感想を書いて提出してもらう。 第1回 ガイダンス、金融論Ⅰの復習 第2回・第3回 金融市場 第4回・第5回 金融機関(2) 金融仲介機関以外の金融機関 第6回・第7回 資金循環と金融システム 第8回 中間試験 第9回・第10回 金融政策と経済の実物面・金融面 第11回・第12回 金融システムの問題と金融危機 第13回・第14回 金融制度と公的介入・プルーデンス政策 第15回 まとめ、予備日 上記の内容に加えて、適宜、現実の金融問題を盛り込む予定である。 【自学自習に関するアドバイス】 ・予習・復習として教科書の相当する部分を熟読する ・現実の金融問題の際に配布した資料と教科書の関連性を考え、さらに詳しい情報を自分でも調べてみる			
教科書・参考書等 (教科書) 内田浩史 (2016) 『金融』有斐閣、3400円(税別)。金融論Ⅱではこの本の第9章～第14章までを取り扱う予定である。			
オフィスアワー 最初の授業で周知する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 金融論Ⅰの続きとして授業を進めるため、金融論Ⅰを受講した後に金融論Ⅱを受講することを勧める。もし金融論Ⅰを受講せずに金融論Ⅱを受講する場合は、教科書の第1章～第8章を事前に読んでおくことを勧める。			

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312112) 計量経済学Ⅱ Econometrics Ⅱ 計量経済学入門	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門, 統計学, 計量経済学Ⅰ, マクロ経済学Ⅰ, ミクロ経済学Ⅰ, 経済と数学	
	履修推奨科目	統計学入門, 統計学, 計量経済学Ⅰ, マクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 計量経済学 (Econometrics) の理論とデータを用いた実証分析の方法について講義する。計量経済学Ⅰで学習した単回帰分析の理論を基礎にして、重回帰分析の理論とその応用を中心に説明する。			
授業の目的 計量経済学の考え方を身につけ、実際の経済データを使って計量経済分析が出来るようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 重回帰モデルと最小2乗法の考え方を理解する。 多重共線性とその判定方法, さまざまな関数型と推定式, ダミー変数とその応用, 分布ラグモデル, 同時方程式の考え方を理解する。 実際のデータを使って重回帰分析ができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 期末試験 (100点満点) の得点, 課題レポートや宿題を課す場合はそれらの得点を合計した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【講義の方法】 基本的には講義ノートによる板書講義。必要に応じてテキストを参照する場合がある。テキストの説明では不十分と思われる箇所は、配布資料を使って説明する。データを用いた分析を身に付けるために、Excelによる実習課題を課す場合がある。必要に応じて適宜、宿題を課す場合がある。</p> <p>【講義計画】 第1回: 1. 単回帰モデルから重回帰モデルへ 第2回: 2. 重回帰モデルの推定と検定 第3回: 2. 1 最小2乗推定量の導出 第4回: 2. 2 最小2乗推定量の推定量特性 第5回: 2. 3 多重共線性 : 2. 4 重回帰分析の各種指標 第6回: 3. 関数形と推定式 3. 1 関数形の種類 第7回: 3. 2 実証分析の手順: 対数線形モデルの実際のデータへの応用 第8回: 4. ダミー変数 4. 1 定数項ダミー 第9回: 4. 2 季節ダミー 4. 3 係数ダミー 第10回: 5. 構造変化の検定 5. 1 ゼロ制約のF-検定 5. 2 構造変化のF-検定 第11回: 6. ラグ変数 6. 1 分布ラグモデル 6. 2 幾何級数型分布ラグモデル: コイック・ラグ 第12回: 6. 3 部分調整モデル 6. 4 適合的期待モデル 第13回: 7. 同時方程式モデル 7. 1 同時方程式モデルとは何か 7. 2 同時方程式バイアス 第14回: 7. 3 2段階最小2乗法 (2SLS) 第15回: 7. 4 同時方程式モデルを使った内挿と外挿 7. 5 実際のマクロ計量モデル</p> <p>期末試験</p>			

【自学自習に関するアドバイス】

予習はしなくていいが、授業中取ったノートをもとに授業内容を復習すること。宿題を出す場合があるが、それは予習ではなくもっぱら復習の手助けになるものとする。

教科書・参考書等

教科書：『入門計量経済学』 山本拓・竹内明香著 新世社 定価2500円＋税

参考書：随時指示する。

オフィスアワー

火曜日 4限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 計量経済学Ⅰの単位を取得している方が望ましい。
2. 統計学入門，統計学の単位を取得している方が望ましい。
3. 質問がある場合は自筆のノートを持参すること。
4. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を禁止する。

ナンバリングコード B2ECN-bceE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332070) アジア経済論 Asian Economy	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 姚 峰	関連授業科目	アジア社会論、アジア文化論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 アジア諸国と日本の経済発展の関係などをよりよく理解するため、中国を中心に、台湾・香港・マカオの社会経済発展の歴史と現状および主な課題などを解説する。開発経済学の側面で、最新の経済統計データと新聞記事および研究論文などを活用し、取り上げている東アジアにおける国と地域の社会経済発展について日本と比較しながら解説する。			
授業の目的 40年近く持続的な高度成長を経て世界第2位の経済大国となった中国は、国際貿易などを通じて世界経済成長を牽引している。本講義を履修することにより、中国の改革開放政策と実施にあたる課題などを理解し、変貌している中国を正確に再認識する。日本の最大貿易相手国である中国を中心に、香港、台湾とマカオの地域経済発展を深く理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
マクロ経済と統計分析の視点でアジア経済発展状況を説明することができる。 国際化している東アジア諸国の経済発展状況と抱えている課題などを正確に認識し、具体的に述べるができる。			
成績評価の方法と基準 ミニレポート、課題、期末試験などで総合評価する。 ミニレポート20点+課題20点+期末試験60点。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業方法：口述筆記、液晶プロジェクターによるプレゼンテーション。 総合情報センターのシステムを利用して、適時に講義資料を配布する。 第1回 ガイダンス 第2～3回 中国概況 第4～9回 中国経済 第10～11回 台湾経済 第12～13回 香港経済 第14回 マカオ経済 第15回 まとめ			
学習方法： 1. 中国の地理、社会、文化などに関連する新聞記事を読む。 2. 中国経済の改革内容と発展状況および課題を認識する。 3. 台湾・香港・マカオの経済と社会発展状況を再認識する。 4. 適時に配布する講義資料を参考し、講義ノートを整理する。			
教科書・参考書等 「中国情報ハンドブック」、21世紀中国総研、蒼蒼社。			
オフィスアワー 火曜日4校時、幸町南4号館3階、姚研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義ノートをとること。 携帯電話がマナモットにしておくこと。 私語は周りの迷惑になるので禁止する。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313111) 数理経済学 Mathematical Economics	科目区分	時間割 前期金2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	応用マイクロ経済学	
	履修推奨科目	経済数学入門, 経済と数学, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経済学の考え方のエッセンスである経済理論においては, 数学を用いることが当たり前のことになっています. 例えばミクロ経済学I・IIの授業では, 関数, 微分や偏微分といった数学がどのように経済分析に活用されるか学びました. この講義では, 微分・偏微分に加えて, 集合・論理, 線形代数, 確率といった数学が経済分析にいかんにか活用されるのかという視点から, 生産経済の一般均衡, 投入産出分析, 協力ゲームなどのトピックを解説します.			
授業の目的 経済理論を数理的な手法を用いて理解する.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経済分析において数理的な手法がどのように役立つかを説明することができる.			
成績評価の方法と基準 宿題(30%)と期末試験(70%)で評価します. なお, 小レポートや確認テストなどを追加的に行い, 成績評価の(未提出でも減点なしの)加点材料として用いる場合があります. 詳細は初回授業で説明します.			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】主に板書によります. 適宜, 配布資料やプロジェクターを用います.			
【授業計画】進行状況により, 若干の変更をする可能性があります. 1. 制約付き最適化問題の解法: ラグランジュ未定乗数法 (3回) 2. 生産経済の一般均衡: ロビンソン・クルーソー経済 (4回) 3. 投入産出分析: 産業部門のつながり (4回) 4. 協力ゲームとコア: グループ間の競争と協調 (4回)			
【自学自習に関するアドバイス】受講生は毎回の講義内容の復習を中心に自学自習を行ってください. そして講義中に示す問題や宿題を解いて, 計算や作図を行い, 自分の理解を確認してください.			
教科書・参考書等 【教科書】使用しません. 【参考書】その他の参考書については講義初回に紹介します. 武隈慎一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社. 武藤滋夫(2001)『ゲーム理論入門』日本経済新聞社.			
オフィスアワー 木曜日4時限目(予定)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義内容は積み上げ式ですから, 継続的な出席が単位取得の大前提です. 試験直前の詰め込み勉強だけでは単位取得は困難です. その他は初回授業で説明します.			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313171) 公共経済学 I Public Economics I	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 篠原 隆介 (非常勤講師)	関連授業科目	公共経済学II	
	履修推奨科目	ミクロ経済学I、II	
学習時間 授業90分×15回+自主学習			
授業の概要 本講義では、市場経済と政府の関係について経済学を通して考察します。本講義では、主に、「市場経済の利点とは何か?」、「市場経済の欠点とは何か?」、「この欠点を補うための政府の役割は何か?」をミクロ経済学的手法に基づき、講義します。講義の前半は、市場経済の利点を、後半は、公共財と外部性による市場の失敗と政府の政策について講義します。			
授業の目的 近年、日本は深刻な財政赤字の問題に直面しており、限られた予算をより効果的に使うため、「政府と民間部門(市場)の役割分担が、どのようなあるべきか」が問われています。本講義での学習により、市場経済の利点と欠点を整理することが可能になるとともに、市場と政府のあるべき関係について考察することも可能になります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 市場経済がもたらす利点と欠点を、ミクロ経済学に基づき述べることができる。 2. 市場の失敗は、どのような政策を用いて解消することができるのか、説明することができる。 3. 公共財・外部性の理論を、環境問題等、現実の問題に応用し、問題解決の方法について客観的に分析することができる。			
成績評価の方法と基準 第15回目講義後に試験(100%)を実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
[授業計画] 第1回: イントロダクション: 市場の失敗と政府の役割 第2回: 消費者理論(1): 消費者の効用最大化問題、スルツキー分解 第3回: 消費者理論(2): 消費者行動と効率的な消費税制 第4回: 交換経済(1): 複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について 第5回: 交換経済(2): パレート効率配分 第6回: 交換経済(3): 厚生経済学の基本定理、本定理と市場と政府の関係性 第7回: ゲーム理論復習: 戦略形ゲームとナッシュ均衡 第8回: 公共財(1): 公共財、準公共財、私的財、公共財供給のモデル構築について 第9回: 公共財(2): 公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について 第10回: 公共財(3): 公共財の私的供給とただ乗り問題(ゲーム理論分析) 第11回: 公共財(4): リンダール・メカニズムによる公的な公共財供給 第12回: 外部性(1): 外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗 第13回: 外部性(2): 政府の政策と外部性の内部化 第14回: 外部性(3): 当事者間の交渉と内部化(コース定理) 第15回: 講義総括			
[授業および学習の方法] 授業は、担当教員作成の講義レジュメに基づき行われる。講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すると、理解は深まる。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。			
[自学自習のためのアドバイス] 講義履修以前に、公共経済学を概観したい場合、次の文献を読むと良い。 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年			
教科書・参考書等 担当教員作成のレジュメに基づき講義を行うので、教科書は使用しない。参考書は、第1回目講義にて、紹介する。			
オフィスアワー 夏期集中講義であるため、講義の休み時間中に質問等を受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ミクロ経済学I、IIを履修済みであることが望ましい。その他の注意事項は、初回の講義にて説明する。			

ナンバリングコード B3ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313172) 公共経済学Ⅱ Public Economics Ⅱ	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮崎 浩一	関連授業科目	公共経済学I、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II	
	履修推奨科目	公共経済学I、経済数学入門、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 この講義では、公共経済学Iに引き続き、経済における公共部門の役割を講義する。具体的には、公共部門が提供する保険（健康保険や失業保険など）、国家の財政政策と財政運営について講義する。各トピックについて、なぜそのような制度があるのかに根拠を与える理論の紹介と実際の制度を紹介する。			
授業の目的 健康保険制度や公的年金制度など我々は政府の作った社会保障制度と切っても切れない関係にあります。また、今後日本の財政の悪化が我々の将来の生活にどのような影響を及ぼすか無視することはできません。この講義を受講することで、基本的な社会保障や財政の経済学的分析手法を学び、それらの抱える問題点の解決方法を経済学的手法を用いて議論することができるようになります。(DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・社会保険とは何か、その存在の理由が正確に説明できる。 ・財政の持続可能性とは何か、またそのための条件は何か、説明できる。 ・動学的非整合性とは何か、説明できる。 ・バローの中立性命題とは何か、それが成り立つためにはどのような条件が必要か、説明できる。 ・公的年金はなぜ必要なのか、その問題点は何か、説明できる。 			
成績評価の方法と基準 1回のクラス内中間試験、期末試験、課題で判断する予定です。中間試験は第8回の講義内で行う予定です。中間試験と期末試験は全体の評価の35%ずつ、課題は30%を占める予定です。ただし、受講状況などにより評価の方法を変更する可能性があります。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義はスライドと板書を主に使用します。講義前には、当日の講義のレジュメまたはスライドをホームページ(Moodle上に作成予定)上で配布する予定です。 5、6回程度、講義内容に関する課題を出す予定です。以下に講義計画を載せておきます。なお、以下の講義計画は進行状況により変更する可能性があります。 第1回：ガイダンス、社会保険（1）：社会保険とは何か？ 第2回：社会保険（2）：不確実性の下での意思決定 第3回：社会保険（3）：逆淘汰 第4回：社会保険（4）：モラル・ハザード 第5回：財政政策と時間（1）：経済成長と政府の規模 第6回：財政政策と時間（2）：政府の予算制約と持続可能性 第7回：財政政策と時間（3）：資本所得課税と動学的非整合性 第8回：中間試験 第9回：財政政策と時間（4）：資本所得課税と経済成長 第10回：財政運営と世代（1）：リカード=バローの中立性命題 第11回：財政運営と世代（2）：課税標準化とバッファとしての公債 第12回：財政運営と世代（3）：世代重複モデル 第13回：財政運営と世代（4）：公的年金のマクロ経済的効果 第14回：財政運営と世代（5）：世代間の公平性 第15回：まとめ（予備日） 第16回：期末試験			

【自学自習に関するアドバイス】

- ・講義内容は積み上げ式なので、わからない箇所が出てきたら、なるべく早く疑問を解決するように心がけてください。後回しにするとわからない部分がどんどん増えてしまいます。解決方法としては、いろいろとあると思いますが、講義担当者やよく理解しているクラスメートに聞くのが手っ取り早いと思います。
- ・経済ニュースを読む習慣を付けましょう。この講義で学んだことを利用してニュースに書かれてあることが理解できるかどうか、チェックしてみましょう。

教科書・参考書等

教科書は特にありません。

参考書として林正義、小川光、別所俊一郎『公共経済学』、有斐閣アルマ、2,300円＋税を挙げておきます。この本の8章、11章、12章が本講義の講義内容に該当しています。

オフィスアワー

毎週木曜日2時間目と3時間目に、南2号館3階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールでアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業中、私語は厳禁ですが、質問やコメント等の発言は積極的にしてください。講義が楽しくなります。また、あなたの質問がみんなの理解を深めることになります(あなたの持つ疑問は、大抵、他の受講者も疑問に思っています)。
- ・授業中のスマホや携帯電話の使用は禁ずる。
- ・中間試験の追試は行わない予定ですので、忘れないように受験してください。

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313264) 福祉経済論 I Welfare Economy I	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論Ⅱ、社会政策、経済政策、財政学	
	履修推奨科目	福祉経済論Ⅱ、社会政策、経済政策、財政学	
学習時間 講義90分×15回 +自学自習			
授業の概要 日本は第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度などを中心に福祉国家システムを構築・拡充してきました。しかし21世紀の現在、少子高齢化や人口減少、グローバルな国際競争の激化による経済成長の低迷など、日本の経済社会を取り巻く環境は大きく変化しており、20世紀後半の好条件の下で構築されてきたシステムの再編が避けがたくなっています。 特に、今や国民生活に不可欠な存在である年金や医療といった社会保険制度においてその持続可能性が危ぶまれる状況であり、それらを21世紀の条件下で持続可能な制度へと改変していくことが重要な課題となっています。 この授業では、上記のような日本経済の構造変化と福祉国家システムの財政的課題を踏まえながら、日本の福祉国家システムの基本構造と特徴について学びます。特に、社会保障制度の中軸をなす皆保険・皆年金の社会保険の諸制度に焦点をあて、その枠組みと現在直面している課題について検討します。			
授業の目的 公的年金や公的医療保障は、日本の社会保障システムの中心をなすものであり、今や人々の生活にとって不可欠なものとなっています。しかし、今後さらなる高齢化の深化が予測される中で、これらの社会保険制度は持続可能性を危ぶまれる状況にあり、21世紀の日本の経済社会環境に適したシステムへの改変が模索されています。 この授業では、第1に、資本主義と民主主義をベースとする経済社会において福祉国家が果たす役割と、日本の社会保障システムの理念とデザインを理解することを目的とします(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。第2に、日本の社会保障システムについて、年金・医療等の社会保険を中心に基本構造と課題を理解し、今後のありかたを多角的に検討するために必要不可欠な知識の習得と論理的思考力の育成を目的とします(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 市場経済と民主主義の経済社会における福祉国家の役割について説明できる。 (2) 日本の社会保障システムの理念と体系について説明できる。 (3) 日本の公的年金システムの基本構造について説明できる。 (4) 日本の公的年金システムの財政方式と財政調整メカニズムを説明できる (5) 日本の医療保障システムの基本構造を説明できる。 (6) 日本の医療保障システムの財政調整メカニズムを説明できる。 (7) 高齢社会の深化が各種社会保険制度にもたらす影響を説明できる。			
成績評価の方法と基準 小課題・宿題(25%) + 期末試験(75%)によって評価します。 小課題・宿題は、Moodleを通じて提出してもらいます。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【講義及び学習の方法】 ・授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業時にテキストを必ず持参してください。また、適宜、他の参考文献や政府資料、新聞記事、ニュース映像などを補助教材として使用し、それらを用いて説明を行います。 ・必要に応じて、パワーポイントや板書によってメモを示します。口頭でのみ行った説明と共に書き取ってください。 ・授業内に、予復習のための課題を出題します。必ず期日までに提出してください。それらの課題に取り組んでいることを前提にして、以降の授業を進めます。 ・授業に関する連絡や小課題・宿題の提出は、Moodleを通じて行います。詳細は、授業内で指示します。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス 第2回：日本の社会保障システムの理念 日本国憲法と福祉国家、日本型福祉国家、社会保障システムの経済基盤 第3回：社会保障システムの全体像(1) 第4回：社会保障システムの全体像(2) 第5回：社会保険： 社会保険と民間保険 第6回：年金システム(1) 意義と役割、日本における公的年金の形成史① 第7回：年金システム(2) 日本における公的年金の形成史② 第8回：年金システム(3) 日本の年金システムの仕組み 第9回：年金システム(4) 公的年金システムの課題 第10回：医療保障システム(1) 経済成長と皆保険システム			

第11回：医療保障システム(2) 分立的な制度設計と財政調整①
第12回：医療保障システム(3) 分立的な制度設計と財政調整②
第13回：医療保障システム(4) アメリカの医療保障システム
第14回：医療保障システム(5) 日本の公的医療保障システムの課題
第15回：授業のまとめ

【自学自習について】

- ・授業の予習・復習として、テキストと授業内の配布資料に必ず目を通してください。
- ・授業後には、テキストで確認した要点や口頭での説明、パワーポイントや板書の内容を、ノートに整理しておいてください。

教科書・参考書等

教科書：

木下武徳ほか編（2017）『日本の社会保障システム-理念とデザイン』、東京大学出版会

参考書：

渋谷博史著、『改訂版 福祉国家と地域と高齢化』、2014年、ISBN978-4-7620-2466-5 C3333

その他、授業内に適宜紹介します。

オフィスアワー

水曜日12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・私語厳禁
- ・授業で学ぶ内容への理解を深めるために、普段より、新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておくことを推奨します。

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313265) 福祉経済論Ⅱ Welfare Economy Ⅱ	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	福祉経済論Ⅰ、社会政策、経済政策、財政学	
	履修推奨科目	福祉経済論Ⅰ、社会政策、経済政策、財政学	
学習時間 講義90分×15回 +自学自習			
授業の概要 日本は第2次世界大戦後、豊富な若年者人口と高い経済成長率といった好条件の下で、社会保障制度などを中心に福祉国家システムの構築・拡充を図ってきました。しかし、21世紀の現在、少子化と高齢化と人口減少、グローバルな国際競争の激化による経済成長の低迷と産業・雇用構造の変化など、日本の経済社会を取り巻く環境が大きく変わる中で、福祉国家システムの再編が避けがたい状況となっています。 この授業では、少子高齢化の進行と経済構造が変化する中で重要性を増している社会保障の分野として、介護保険制度、公的扶助、各種社会福祉（児童福祉など）について理念と制度的枠組み、課題を検討していきます。 授業を進めるにあたっては、これらの政策に関する受講者の見識と理解を深めるために、授業内容に関連する政府の政策資料や新聞記事やニュース映像なども紹介します。受講生に、意見や感想を求めることもあります。			
授業の目的 この授業では、日本の福祉国家システムと社会保障制度の基本構造を確認したうえで、(1)高齢化に伴って増加する介護ニーズに対応するための介護保険と高齢者福祉、(2)日本の社会保障体系において最後のセーフティーネットとしての役割を担う公的扶助(生活保護制度)、(3)社会的な保護を必要とする子どもへの救済や子育て世帯への支援に関する児童福祉などについて、その理念と制度的枠組みを理解することを目指します(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。そして、日本の経済社会が変化する中でこれらの政策の役割がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題について論理的・多角的に検討する思考力の育成を目指します(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1)日本の社会保障制度の体系と特徴を理解し、それらを説明できる。 (2)公的扶助制度の基本原理と仕組み、扶助の特徴を理解し、説明できる。 (3)高齢者福祉と介護保険について、基本的な仕組みと特徴を理解し、高齢社会の深化によって生じる課題を説明できる。 (4)児童福祉の基本理念と主要な制度の仕組み、財政構造について理解し、説明できる。 (5)障害者福祉の基本理念と仕組みについて理解し、説明できる。			
成績評価の方法と基準 授業内の小課題・宿題(30%)、期末試験(70%)により評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 ・授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業時にテキストを必ず持参してください。また、適宜、他の参考文献や政府資料、新聞記事、ニュース映像などを補助教材として使用し、それらを用いた説明を行います。 ・受講者に、授業内に意見や感想を求めることがあります。積極的に発言してください。 ・必要に応じて、パワーポイントや板書によってメモを示します。口頭でのみ行った説明と共に書き取ってください。 ・授業内に出された課題は、必ず期日までに提出してください。課題への取り組みを前提として、授業を進めていきます。			
【授業計画】 第1回：ガイダンス 第2回：福祉国家と市場経済 第3回：日本の社会保障システムの全体像(1) 第4回：日本の社会保障システムの全体像(2) 第5回：高齢者福祉と介護保険制度(1) 介護保険制度の目的と創設の経緯 第6回：高齢者福祉と介護保険制度(2) 介護保険制度の仕組み 第7回：高齢者福祉と介護保険制度(3) 介護保険制度の財政 第8回：高齢者福祉と介護保険制度(4) 地域包括ケアシステム 第9回：社会福祉の理念 第10回：公的扶助(1) 第11回：公的扶助(2) 第12回：児童福祉 保育政策(1) 第13回：児童福祉 保育政策(2) 第14回：障害者福祉 第15回：授業のまとめ			

【自学自習について】

- ・授業の予習・復習として、テキストと授業内の配布資料を読んでおいてください。
- ・授業後には、テキストで確認した要点や口頭での説明、パワーポイントや板書の内容を、ノートに整理しなおしてまとめておいてください。
- ・授業に関する連絡や小課題・宿題の提出は、Moodleを通じて行います。詳細は、授業内に指示します。

教科書・参考書等

教科書：

木下武徳ほか編（2017）『日本の社会保障システム-理念とデザイン』、東京大学出版会、2500円＋税

参考書：

渋谷博史著、『改訂版 福祉国家と地域と高齢化』、2014年、ISBN978-4-7620-2466-5 C3333

オフィスアワー

水曜日12：00-13：00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

普段より、新聞やニュースに関心を持ち、見聞きしておくことを推奨します。

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313192) 国際経済学B International Economics B	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 井上 貴照	関連授業科目 国際経済学A	財政学A・B、金融論Ⅰ・Ⅱ、金融政策論Ⅰ・Ⅱ、	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、国際経済学A	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 欧米の経済状況、中国をはじめ東アジアやその他の地域の新興国の経済発展、為替レートの変化、農産物の市場開放およびFTA・EPA等の日本経済に与える影響は、今日の日本経済にとって重要な経済問題です。このような国家間の経済問題を研究対象とするのが国際経済学です。今年度は、この講義では、国際マクロ経済学・国際金融の基礎理論を説明します。 「国際経済学B」では、国際収支表と貿易・サービス収支、経常収支等の意味、外国為替市場の構造と為替レートの決定、開放経済における国民所得の決定、開放経済における財政・金融政策の効果、そして為替レートの決定とその変動について説明します。 国際マクロ経済学は、国際貿易論とともに、国際経済学のなかで最も重要な分野の1つです。また公務員試験や経済学検定試験においても国際マクロ経済学は出題分野の1つになっています。 この講義では、履修者がマクロ経済学を履修していることを前提とします。			
授業の目的 以下のような国際マクロ経済学の基礎理論を学修する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際収支について 2. 外国為替市場の構造と為替レートの決定について 3. 開放経済における国民所得の決定について 4. 開放経済における財政・金融政策の効果について 5. 為替レートの決定について 			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際マクロ経済学の基礎理論を体系的に修得する。 2. 日々の新聞記事や経済ニュースを通じて国際マクロ経済や国際金融に関する諸問題を経済学的に解明できるようになる。 3. 論理的思考力を身につけることができる。 4. 「経済学検定試験」や公務員・資格試験の問題を解くことができる。 			
成績評価の方法と基準 数回の宿題を課しますが、基本的には中間試験および期末試験を総合して認定します。中間試験を約40%、期末試験を約60%の配分で成績を評価します。中間試験および期末試験においては、A4判の自筆のメモ用紙1枚と定規の持込みを認めます。より詳しい単位認定方法および成績評価については、第1回目の授業で説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 授業の進度は、以下のように予定しています。			
第1回：シラバスの説明、授業内容を理解するために必要な数学 第2回：国際経済学の課題 第3回：国際収支表と国際収支の諸概念(1)国際収支表、経常収支 第4回：国際収支表と国際収支の諸概念(2)金融収支、経常収支の経済学的意味 第5回：外国為替市場と為替レートの決定(1)為替レート、外国為替、外国為替市場の構造 第6回：外国為替市場と為替レートの決定(2)外国為替の需要曲線、供給曲線、外国為替市場 第7回：外国為替市場と為替レートの決定(3)為替レートの決定、J-curve effect、為替投機 第8回：国民所得と国際貿易(1)小国の場合 第9回：中間試験 第10回：国民所得と国際貿易(2)2国モデルの場合 第11回：開放経済における財政・金融政策(1)国際マクロ経済、国際資本移動 第12回：開放経済における財政・金融政策(2)国際マクロ経済モデル 第13回：開放経済における財政・金融政策(3)財政・金融政策の効果 第14回：為替レートの決定(1)外国為替需給説、金利平価説、購買力平価説 第15回：為替レートの決定(2)マネタリー・アプローチ、資産市場アプローチ			

【授業の方法】

1. 講義ノート・handout・資料にしたがって説明します。
2. 要点・補足説明を板書します。

【自学自習に関するアドバイス】

1. 授業終了後に必ず復習して下さい。履修者が復習することを前提に授業が組み立てられています。
2. 授業内容は連続しているので欠席すると理解できなくなることを心に留めておいて下さい。

教科書・参考書等

1. 教科書：井上貴照(2018)『国際マクロ経済学講義ノート』8th version
2. 参考書：授業中に紹介します。

オフィスアワー

Tuesday, 13:00-14:30 (左記の時間以外でも時間の許すかぎり質問に応じます。)

研究室：幸町キャンパス南3号館3階北側

できれば、あらかじめ電話かメールで連絡してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

私語は厳禁です。注意しても私語をやめない場合、履修者名簿から名前を削除します。

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313250) 金融政策 I Monetary Policy I	科目区分	時間割 前期木3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤井 宏史	関連授業科目	金融政策 II	
	履修推奨	マクロ経済学 I、マクロ経済学 II、金融論 I、金融論 II、経済政策 II	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 最近の日本経済では、「異次元の金融緩和」といわれる超金融緩和政策と財政出動で、景気が支えられている状態が続いている。本講義では、日頃馴染みにくい金融政策の運営主体である中央銀行の役割を中心に現代の金融政策の理解にとって必要な基礎的知識の習得をめざす。			
授業の目的 本授業は、金融政策の運営主体である中央銀行の役割と管理通貨制度下での通貨管理に関する基礎的知識の習得（知識・理解）をめざし、それを踏まえて日本銀行のあるべき姿や最近の金融政策の動向が通貨量に及ぼす変化について自分なりの見解を持つこと（問題解決・課題探究能力）をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①中央銀行の組織と機能の基本が説明できること ②中央銀行と金融政策の起源が説明できること ③金本位制度と管理通貨制度の違いが説明できること ④金融政策と通貨量の基本的な関係が説明できること			
成績評価の方法と基準 レポートと期末試験による。配点は、レポート20点、期末試験80点とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 授業は以下のスケジュールで進める予定にしているが、変更する可能性がある。 第1回 はじめに 第2回 中央銀行の起源と機能 第3回 金本位制度と金融政策 第4回 管理通貨制度と金融政策 第5回 日本銀行の起源と組織 第6回 日本銀行の業務－銀行券の発行流通 第7回 日本銀行の業務－決済システムの運営 第8回 日本銀行の業務－金融システムの安定化 第9回 日本銀行の業務－財政の資金繰り 第10回 日本銀行の独立性 第11回 ベースマネーとは何か？ 第12回 金融政策によるベースマネー・コントロール 第13回 マネーストックとは何か？ 第14回 金融政策によるマネーストック・コントロール 第15回 まとめ			
【授業の方法】 口述筆記と板書。ただし、講義を補うために適宜、資料と練習問題を配布する。 本講義は、金融の基礎知識を前提にして講義を進めるので、金融論 I・II が履修済みであることが望ましい。自信のない受講生は、あらかじめ参考書の6)を熟読しておくことが必要である。			
【学習の方法】 ・参考書2)は手軽で読みやすい文献なので、事前に読んでおくことを薦める。 ・授業内容がまとまった段階で、講義内容の要点を盛り込んだ練習問題を配布するので、復習に活用すること。 ・新聞やネットニュースを読んで、マクロ経済や金融政策の動向に関心を持つ習慣をつけること。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は以下の通り。参考書それぞれの特色と活用の仕方については初回授業で説明する。 1) 日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行』有斐閣, 2011年。 2) 池上 彰『改訂新版 日銀を知れば経済がわかる』平凡社新書, 2017年。 3) 酒井良清・榊原健一・鹿野義昭『金融政策 第3版』有斐閣アルマ, 2011年。 4) 翁 邦雄『日本銀行』ちくま新書, 2013年。 5) 日本銀行ホームページ「日本銀行 その機能と組織」広報用パンフレット。 6) 家森信善『金融論』中央経済社, 2016年。			
オフィスアワー 月曜日5時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 連絡や資料提供、質疑応答などは、eラーニング管理システム (Moodle) を利用する。			

ナンバリングコード B3ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 313251) 金融政策Ⅱ Monetary Policy Ⅱ	科目区分	時間割 後期金1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤井 宏史	関連授業科目	金融政策Ⅰ	
	履修推奨	マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、金融論Ⅰ、金融論Ⅱ、経済政策Ⅱ	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 最近の日本経済では、「異次元の金融緩和」といわれる超金融緩和政策と財政出動が景気を支える状態が続いている。本講義では、日頃馴染みにくい、金融政策の目標や手段、政策の運営方法と効果波及メカニズムなど、およそ現代の金融政策の理解にとって必要な基礎的知識の習得をめざす。			
授業の目的 本授業は、現代の金融経済の動向を理解する上で欠かせない、金融政策に関する基礎的知識の習得をめざし（知識・理解）、それをもとに現実の金融経済の動向に関心を持ち、マクロ金融経済の課題と処方箋について自分なりの見解をもつ（問題解決・課題探究能力）ことをめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①金融政策の目標と手段の基本が説明できること ②金融政策の基本的な運営方法が説明できること ③金融政策の基本的な波及メカニズムが説明できること ④最近の金融政策の特徴を説明できること			
成績評価の方法と基準 レポートと期末試験による。配点は、レポート20点、期末試験80点とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 □授業計画 授業は以下のスケジュールで進める予定にしているが、変更する可能性がある。			
第1回 はじめに 第2回 金融政策の最終目標 第3回 政策目標のトレード・オフ(1) 第4回 政策目標のトレード・オフ(2) 第5回 代表的な金融政策手段(1) 第6回 代表的な金融政策手段(2) 第7回 金融調節と短期金利 第8回 金融政策の運営(1) 第9回 金融政策の運営(2) 第10回 金融政策の波及メカニズム(1) 第11回 金融政策の波及メカニズム(2) 第12回 金融政策の課題(1) 第13回 金融政策の課題(2) 第14回 金融政策の課題(3) 第15回 まとめ			
【授業の方法】 口述筆記と板書。ただし、講義を補うために適宜、資料と練習問題を配布する。 金融の基礎知識を前提にして講義を進めるので、金融論を受講済みであることが望ましい。自信のない受講生は、あらかじめ参考書の6)を熟読しておくこと。			
【学習の方法】 ・授業内容がまとまった段階で、講義内容の要点を盛り込んだ練習問題を配布するので、復習に活用すること。 ・新聞やネットニュースを読んで、マクロ経済や金融政策の動向に関心を持つ習慣をつけること。			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は以下の通り。参考書それぞれの特徴と活用の仕方については初回授業で説明する。 1) 日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行』有斐閣, 2011年。 2) 酒井良清・榊原健一・鹿野義昭『金融政策 第3版』有斐閣アルマ, 2011年。 3) 小林照義『金融政策』中央経済社, 2015年。 4) 翁 邦雄『日本銀行』ちくま新書, 2013年。 5) 日本銀行ホームページ「日本銀行 その機能と組織」広報用パンフレット。 6) 家森信善『金融論』中央経済社, 2016年。			
オフィスアワー 月曜日5時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 金融政策Ⅰの履修が望ましい。 連絡や資料提供、質疑応答などは、eラーニング管理システム(Moodle)を利用する。			

ナンバリングコード B3ECN-abcE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 313121) 経済統計A Statistics for Economics A	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学 経済学入門	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済のニュースなどを見ると様々な形で経済データの変化が伝えられている。本講義においては実際に経済において使用されている経済指標について講義することで、現実の経済の動向について判断する能力を養成することを目的とする。特に「経済統計A」では少し理論的な側面から経済指標について取り扱い、日々の経済データの背景にある考え方について学ぶ。			
授業の目的 経済データなどの指標には、経済学的、統計学的そして制度的な背景があります。このことは、単純に漫然とニュースを見ているだけではつかめないものもあります。本講義では理論的な背景を含め経済を学ぶ学生として必要な知識を習得することを目的とします。この結果、経済データに関する数量的な取り扱いに関する事柄に対してスキルアップするはずで。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済データの理論的背景について理解を高めることができる ・ 数量データの取り扱いについてより習熟する 			
成績評価の方法と基準 出席、レポートおよび期末試験。得点の比重は出席とレポート合わせて30%に対し、後期試験70%で行う。なお、授業中にも関わらず、許可なくスマホ等を使用した場合、成績評価対象外とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 プロジェクターを用いた投影を含め、板書を用いて授業を行う。 レポートは表計算ソフトウェアによるレポートを要求する場合がある。ただし、授業中にコンピュータの使用についての演習は行わない予定である。事前に教材となるレジュメ等をイントラネット上またはmoodle上で配布するので学生は必要箇所を確認印刷して準備しておくこと。 具体的な方法については第1回目の授業で確認します。 (1)-(2) センサス・データ (3)-(4) 標本調査 (5)-(6) 時系列データ (7)-(8) 指数 (9)-(10) 賃金と労働市場 (11)-(12) 家計 (11)-(12) 景気変動 (13)-(15) 国民経済計算 レポート提出に関しては3回程度を予定しています。またmoodleを用いた小テストも行う場合があります。			
教科書・参考書等 基本的には使用しません。説明に関しては配布物等を用意する予定です。 以下は参考書です。 『経済統計入門』、中村・新家・美添・豊田、東京大学出版会 『経済統計』、廣松、高木、佐藤、木村、新世社 『テキストブック・経済統計』、中島・北村・木村・新保、東洋経済新報社 『統計学(第2版)』、森棟公夫、新世社 その他、必要に応じて授業中に紹介します。			
オフィスアワー 火曜日4時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業のレジュメ等を用意する場合がありますので、各自で印刷してください。具体的な方法は第一回目の授業において説明します。なお、授業中、許可なくスマホ等の使用を禁止します。			

ナンバリングコード B3STT-bcxE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 313122) 経済統計B Statistics for Economics B	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学 経済学入門	
	履修推奨科目	経済統計A	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 「経済統計A」では少し経済的な視点から経済指標について取り扱い、日々の経済データの背景にある考え方について学びました。しかしながら、経済分析を行う際には自分自身でも経済データを用いて分析を行えることが求められることがあります。本講義では実際にデータを用いることで、経済のデータと統計学の関連について考察することになります。			
授業の目的 経済データなどの指標には、経済学的、統計学的そして制度的な背景があります。こうした理論的背景とは別に、実際にデータを処理する際に欠かせない、統計学的な対応方法について一部計算機を用いて実行することを目的とします。この結果、学生にとっては経済データに関する統計的・数量的な取り扱いに対してスキルアップすると思います。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・経済データの加工について考察できる ・数量データの分析方法についてスキルを高めることができる 			
成績評価の方法と基準 出席、レポートおよび期末試験。得点の比重は出席とレポート合わせて30%に対し、後期試験70%で行います。なお、授業中にも関わらず、許可なくスマホ等を使用した場合、成績評価対象外とします。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 プロジェクターを用いた投影を含め、板書を用いて授業を行います。人数によってはコンピュータを用いて説明や演習を行うこともあります。授業において使用するデータはすべて経済データです。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 度数分布表とヒストグラム 2. 累積度数分布と分位点 3. 代表値 4. バラツキの尺度 5. 不均等度の捉え方 6. 度数分布表からの近似計算 7. 分布のその他の計算方法 8. 相関 9. 回帰分析の基本 10. 回帰分析の発展 (対数変換重回帰分析) 11. 分割表の分析 12. 時系列データの見方 13. 時系列データの分解 14. 演習または調整 15. 演習または調整 			
なお、これはあくまで予定であるので、進捗状況との関係でやむを得ず変更が必要となる可能性があります			
教科書・参考書等 『初級 統計分析』、西郷浩、新世社、1800円+税			
<p>以下は参考書です。</p> <p>『経済統計入門』、中村・新家・美添・豊田、東京大学出版会</p> <p>『統計学 (第2版)』、森棟公夫、新世社</p> <p>その他、必要に応じて授業中に紹介する。</p>			
オフィスアワー 火曜日4時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中は授業に集中してください。問題がある場合退席していただくことがあります。なお、授業中、許可なくスマホ等の使用は禁止です。			

ナンバリングコード B2BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322170) 人的資源管理論A Human Resource management A	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	人的資源管理論B	
	履修推奨科目	経営組織論A、経営学原論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 人的資源管理論は、報酬管理、業務管理、キャリア管理、雇用管理、労使関係管理などの5つの領域からなりたっており、企業内における人材の問題全般と関わる。この人的資源管理論Aの授業では、人材という経営資源の効果的な活用のあり方を理解するために、主要領域のうち、とくに報酬管理と業務管理について検討する。具体的な制度の仕組みと機能、制度間の相互関係などに注目しながら解説を進める。			
授業の目的 人的資源管理の主要領域のうち、とくに報酬管理、業務管理に関する制度、運用実態、それらに影響を与える社会・経済的背景を理解することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の目的は以下の3点である。 ・日本企業の報酬管理の歴史を説明することができる。 ・日本企業の業務管理の特徴について説明することができる。 ・日本における1990年代以降の成果主義化に関して、制度的実態およびそれをもたらした社会的背景について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 期末テストで成績評価を行う。 リアクションペーパー、小テストなどで加点を行うことがある。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 以下は、授業の進度によって変更することがある。			
(1) 人的資源管理論の学び方 (2) 賃金の決め方 (3) 賃金体系史 (4) 賃金の上がり方 (5) 賃金の経済理論 (6) 人事制度 (7) 人事評価 (8) 大卒ホワイトカラーの人的資源管理 (9) 賃金、昇進の人的資源管理：国際比較 (10) 開発技術者の仕事管理：組立産業 (11) 開発技術者の仕事管理：装置産業 (12) 成果主義 (13) 成果主義と業績管理 (14) 業績管理と生産管理 (15) 講義のまとめ			
【自学学習の方法】 授業中に関連文献、参考資料を指摘します。その指示に従って予習・復習をすること。とくに、労働政策研究・研修機構や厚生労働省のHPでは、参考文献や資料を入手することができるので、積極的に活用してほしい。			
教科書・参考書等			
【参考書】 佐藤博樹・藤村博之・八代充史著 (2011)『新しい人事労務管理第4版』有斐閣アルマ。2000円			
オフィスアワー 木曜三時間目 必ずメールでアポイントを取ること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・参考書を購入しなくても授業に出席すれば十分な理解を得ることはできる。 ・正規の手続きによらない定期試験の成績調査には応じない。 ・パワーポイントのシートは配布しないので、授業中の指示に従ってノートを作成すること。 ・人的資源管理論は、経営学、経済学の諸領域と密接に関連しています。詳しくはその都度指摘しますが、多様な関連性を意識して学ぶことが大切です。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320104) 経営史 Business History	科目区分	時間割 前期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経済史入門、現代企業論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経営史では企業の歴史、とりわけ大規模企業の生成と発展の歴史を学ぶ。 本講義では、前半は近代におけるイギリスとアメリカの経営史を講義し、後半は日本経営の歴史を中心に学ぶ。講義内容は以下の4点が主要な柱となる。 ①英に対し、米・日などを含めた後進国の企業経営の歴史はそれを取り巻く経済環境とどのように関係しているのか？ ②企業は直面した経営上の課題にどのように対応してきたのか？ ③現代の大企業はどのような歴史背景のもとで形成・成長してきたのか？ ④近現代日本企業の経営的特徴と近年におけるその変容をどう理解すべきか？			
授業の目的 企業経営およびそれを取り巻く経済環境の歴史を理解し、現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できるようになること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
企業はそれを取り巻く経済環境の中で形成・成長されてきたことを、歴史事例を持って説明できる。 現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%、レポート30%で評価を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 (1)ガイダンス：経営史はどういう学問か？ (2)産業革命期イギリスの近代企業の成立①経営者の課題と対応 (3)産業革命期イギリスの近代企業の成立②経営管理を中心に (4)アメリカ的巨額経営①大量生産体制および資本・管理の大規模化 (5)アメリカ的巨額経営②アメリカ的大企業の発生 (6)独占的企業の展開と限界 (7)ビッグ・ビジネスと現代管理組織の成立①管理組織の変化 (8)ビッグ・ビジネスと現代管理組織の成立②工場管理の変化 (9)発展途上国の工業化と企業経営 (10)日本における近代企業の成立 (11)日本企業の大規模化 (12)戦後の企業経営一財閥解体から企業集団の形成まで一 (13)日本的経営①形成と展開 (14)日本的経営②変容 (15)まとめ 定期試験			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 参考書：大河内暁男『経営史講義（第2版）』東京大学出版会、2001年。宮本又郎等『日本経営史』有斐閣、2007年。			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語などほかの受講生の迷惑をかける行為はしないこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bdcE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320124) 環境システム論 Introduction to Environmental Problem	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bdcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	商品システム論、商品実験	
	履修推奨科目	資源エネルギー論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 現代社会の大きな流れのひとつとして、地球環境に負荷を与えない、循環型社会システムの構築が模索されています。産業構造に目を転じてみても、このような環境への関心の高まりや、それに伴う社会的ニーズを背景として、環境ビジネスという産業が生まれ、その市場は大きく成長しようとしています。この授業では、これからの循環型社会システムを理解するために必要な基礎知識の修得を目的とし、様々な地球環境問題、廃棄物問題、リサイクル問題について、その基礎から最新のトピックスまでを解説する予定です。			
授業の目的 企業経営や市民生活と環境問題の関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①企業経営と環境問題の関わりについて説明できる。 ②市民生活と環境問題の関わりについて説明できる。 ③習得した基礎知識をもとに、刻々と変化する環境問題について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。 1つの目安として、資源エネルギー論とあわせて履修することで、環境社会検定試験（東京商工会議所主催）に合格する程度の基礎知識の修得を目標とします。			
成績評価の方法と基準 以下の2つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。 (1) 期末テスト (100点) により認定します。 (2) 期末テスト (50点) および環境社会検定試験 (50点) により認定します。 すでに環境社会検定試験に合格している者、または平成30年度前期までに合格した者に50点を与えます。 なお、確認テストは出席状況の把握や授業内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) イントロダクション (2) 地球温暖化の現状 (3) 地球温暖化に対する取り組み 1 (4) 地球温暖化に対する取り組み 2 (5) オゾン層破壊 (6) その他の環境問題 1 (7) その他の環境問題 2 (8) 廃棄物問題の現状 (9) リサイクルの現状 (10) リサイクル法 1 (11) リサイクル法 2 (12) 環境問題に対する消費者の取り組み (13) 環境問題に対する企業の取り組み (14) ゲストスピーカーによる講演 (15) まとめ (16) 期末試験			
【授業方法】 プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この確認テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。			
新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から環境問題やエネルギー問題に興味を持つよう心掛けてください。			
教科書・参考書等 教科書：使用しません 参考書： 三橋規宏『環境経済入門』（日本経済新聞出版社、2013年、1000円＋税） 足達英一郎『環境経営入門』（日本経済新聞出版社、2009年、860円＋税）			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 特にありません。環境社会検定試験の詳細については、東京商工会議所HPを参照してください。			

ナンバリングコード B3BSN-dbcE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323470) 商品システム論 Commodity Science	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bc d E	対象学生・特定プログラムとの対応30
	授業形態 Lx	単位数2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	環境システム論、資源エネルギー論	
	履修推奨科目	商品実験	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 現在の豊かさは、多くの商品の生産と消費、それにとまなう廃棄を前提として成立しています。その商品は私たちのライフスタイルの変化と共に移り変わり、逆に、商品の変化は私たちのライフスタイルの移り変わりをもたらします。したがって、商品の移り変わりを予測するためには、私たちのライフスタイルの変化、技術の変化、経済社会環境の変化を理解することが必要です。この授業では、商品概念や商品の品質など商品の基礎知識を理解したうえで、商品にかかわる諸問題である消費者問題、廃棄物問題、地域活性化の問題などを通して、豊かな社会における商品はどうあるべきかを考えます。			
授業の目的 変化する社会環境と身の回りの商品との関わりについて、基礎的な知識を習得することを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品学の基礎知識を修得し、それらを説明できる。 ②社会環境と商品の関わりについて、基礎的な知識を習得し、それらを説明できる。 ③習得した基礎知識をもとに、社会環境や商品について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。			
成績評価の方法と基準 以下の3つのうち、いずれか各受講生の希望により、成績評価の方法を選択できます。 (1) 期末テスト (100点) により認定します。 (2) 期末テスト (75点) および販売士3級検定試験 (25点) により認定します。 (3) 期末テスト (50点) および販売士2級検定試験 (50点) により認定します。 すでに販売士3級検定試験または販売士2級検定試験に合格している者、または平成30年度後期までに合格した者に、それぞれ25点または50点を与えます。 なお、確認テストは出席状況の把握や授業内容の理解度を確認するために行うので、その結果は単位認定に影響しません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) イントロダクション (2) 商品概念・分類・品質 1 (3) 商品概念・分類・品質 2 (4) 商品を取り巻く環境の変化 (5) サービス経済化の進展 (6) サービス特性・品質 (7) 商品コンセプト・商品開発 (8) まとめ (9) 商品と消費者 (10) 商品とデザイン (11) 商品と環境 (12) 商品とエネルギー (13) 商品と地域 (14) まとめ (15) ゲストスピーカーによる講演 (16) 期末試験 【授業方法】 プリントを配付し、それらを中心に授業を行います。授業ごとに穴埋め形式の確認テストを行います。この確認テストは前回の授業内容から重要なキーワードについて出題します。 新聞やテレビ等を積極的に利用し、普段から身の回りの商品に興味を持つよう心掛けてください。			

教科書・参考書等

教科書：

使用しません

参考書：

田島義博『マーチャンダイジングの知識』（日本経済新聞出版社、2010年、830円＋税）

延岡健太郎『製品開発の知識』（日本経済新聞出版社、2012年、860円＋税）

オフィスアワー

金曜日4時限目

経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特にありません。販売士検定試験の詳細については、日本商工会議所HPを参照してください。

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322150) 経営戦略論B Management Strategy B	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営戦略論A	
	履修推奨科目	経営戦略論A	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、企業が保有する資源や能力、活動に関わる競争環境など、「なぜ企業間で業績の差が生まれるのか」について分析する際の様々な理論的な考え方を示す。毎回の授業では、トピックを構成する主要概念について説明し、それらに関連した事例や時事問題を紹介する。			
授業の目的 この講義の目的は、企業の経営戦略の理論を学び、かつ実際の企業経営を分析することである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の達成目標は、二つある。 ①様々な経営戦略論の内容を知ることに加え、それらが導かれた背景や応用例などにも触れてもらう。 ②ビジネスパーソンが用いる、基本的な“経営語（ビジネスターム）”を習得する。			
成績評価の方法と基準 期末試験（100％）により評価する。なお、記述の内容はもちろんのこと、誤字・脱字がなく、読みやすい文章を高く評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。 受講生は日頃から日本経済新聞や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。			
第1回 イントロダクション 第2回 経営戦略の理論とは？ (1) 第3回 経営戦略の理論とは？ (2) 第4回 ポジショニング・アプローチ (1) 第5回 ポジショニング・アプローチ (2) 第6回 資源アプローチ (1) 第7回 資源アプローチ (2) 第8回 ゲーム・アプローチ (1) 第9回 ゲーム・アプローチ (2) 第10回 学習アプローチ (1) 第11回 学習アプローチ (2) 第12回 学習アプローチ (3) 第13回 戦略思考のバランス (1) 第14回 戦略思考のバランス (2) 第15回 講義全体のまとめ			
＊進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 予習：講義前には、参考書（青島・加藤（2012））の該当箇所を読んでおくことを薦める。 復習：配付資料をよく読んで、講義内容について理解してください。			
教科書・参考書等 特定の教科書は使用しない。毎回、講義の関連資料を配布する。			
参考書： 青島矢一・加藤俊彦（2012）『競争戦略論 第2版』東洋経済新報社。2,600円 新宅純二郎・網倉久永（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞出版社。3,400円 J.B. バーニー著・岡田正大訳（2003）『企業戦略論(上)(中)(下)』ダイヤモンド社。各2,400円			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lb2 授業科目名 (時間割コード: 322200) マーケティング論B Marketing B	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応30
	授業形態 Lb	単位数2	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論A	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 マーケティングとは、同一の消費者ニーズをターゲットとする競争企業に対抗しながら、企業が消費者との間で両者（企業及び消費者）が満足できるような長期的な交換（取引）関係を形成・維持するための市場活動である。このことから、マーケティングの展開においては、消費者（顧客）満足の向上を図りながら、競争優位を形成・維持することが求められる。したがって本講義では、このことを達成する手段としての4P s（Product, Price, Promotion, Place）について、学生が主体的に行うケース発表および討議を中心として考察を行なう。 また、従来のマーケティングの対象は有形財（モノ）であったが、経済のサービス化とともに、営利および非営利サービスが経済において重要な役割を経たすようになっており、且つ競争も激化していることから、サービスもマーケティングの重要な対象となっている。そこで本講義では、有形財（モノ）との比較で、サービス・マーケティングの特質についても考察を行なう予定である。			
授業の目的 マーケティングの具体的戦略（マーケティング・ミックス）に関する専門的知識を習得するとともに、マーケティング戦略に関する問題を自ら発見し解決できる能力を身につけるための基礎を養う。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 新聞や専門誌のマーケティング戦略に関する記事を理解できる。 2. 市場で展開されているマーケティングに関心を持ち、具体的な活動から企業の意図や目標を解釈・説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験、講義への参加度、およびe-ラーニングの成績により評価し、60点以上を合格とする。 なお、e-ラーニングについては、10点満点のものを2回課する（10点×2回）。 講義への参加度とは、学生が行うケース発表に対する質問での参加度であり、1回の質問に対して1点を与える（1点×質問数）。また、ケース発表に対する評価への参加度であり、評価に参加するごとに1点を与える（1点×参加回数）。 期末試験にはAタイプとBタイプがあり、どちらかを選択する。Aタイプはケース発表(20点)を行い、それをケース・レポート(50点)として提出したものが選択できる（試験配点は30点）。Bタイプは期末試験のみで、配点は100点である。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 学生によるケース発表と質疑応答を中心に、パワーポイント、ビデオ、プリントを使用しながら口述筆記で行なう。基本となる資料は配付するが、それ以外の講義資料については、必要に応じて各自で藤村研究室のホームページからダウンロードして下さい。なお、ダウンロードに必要なパスワード等は第1回目の講義で提示します。 第1回 マーケティングの基礎概念 第2回～5回 製品戦略 第6回～9回 価格戦略 + ケース発表と討議 第10回～13回 プロモーション戦略 + ケース発表と討議 第14回～15回 流通戦略 + ケース発表と討議 【自学自習についてのアドバイス】 第2回～5回 4つの戦略に関する配布資料を読む。 第6回～第15回 発表ケースに関する資料を収集し、討議内容を考える。			
教科書・参考書等 4つの戦略に関する資料を配布する。なお、資料は藤村研究室のHPから各自でダウンロードして下さい。			
【参考】 青木幸弘編、『ケースで学ぶマーケティング』、有斐閣、2015年。 青木幸弘・恩蔵直人編、『製品・ブランド戦略』、有斐閣、2004年。 藤村和宏著、『医療サービスと顧客満足』、医療文化社、2009年。			
オフィスアワー 月曜日の10時～12時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中および講義後の質問を歓迎します。もし対面での質問が嫌な場合は、用紙に記入し、講義後に提出して下さい。口頭あるいは用紙で出された重要な質問については、次の講義時間の最初に回答します。 10分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止します。 また、講義中の会話や携帯電話は禁止します。注意を3度受けた学生は成績評価の対象から除外します。			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323480) 経営統計学 Business Statistics	科目区分	時間割 後期末 4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 細見 正樹	関連授業科目	情報リテラシー、統計学入門、調査データ分析	
	履修推奨科目	統計学入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 将来、企業や官公庁に就職したときや、統計ソフトを使って卒業論文を書くとき、統計について理解したうえで解釈する必要がある。本講義では、質問紙調査を分析する量的調査を行うにあたり必要な基礎知識について講義を行う。まず、質問紙調査を用いて卒業論文を書くために必要な、尺度、質的調査・量的調査、質問紙調査の作成方法についてまず学ぶ。その上で、統計分析に必要な記述統計、確率分布、推測統計まで説明する。時間があれば、回帰分析や分散分析についても学習する。また、小レポート等による課題の提出の必要がある。なお、統計学入門の内容を復習した上で講義に臨むことを推奨する。			
授業の目的 この講義では、量的調査を行うための基礎的な知識やそれに基づき問題を解決するスキルを高めることを目的とする。このため、質的調査および量的調査の特徴を理解し、統計学について基本的な用語の意味や、推測統計の分析手法について理解することを目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 量的調査の方法について概要を説明できる。 統計学の基本的な概念について、簡単に説明することができる。 推測統計の基本的な考え方について、簡単に説明できる。 			
成績評価の方法と基準 複数回の小レポート (30%) と、最終試験 (70%) の合計で評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) 経営学・心理学と統計、尺度 (2) 量的調査・質的調査 (3) 量的調査の方法 (4) 度数分布、代表値 (5) 散布図、相関 (6) 母集団、標本 (7) 確率分布 (8) 正規分布 (9) 標本分布 (10) 仮説検定 (11) 平均値の検定 (12) カイ二乗検定 (13) t検定 (14) 分散分析 (15) まとめ 【授業及び学習の方法】 教科書・レジュメを用いて、講義を行う。事前にレジュメを印刷のうえ持参すること。			
教科書・参考書等 【教科書】 ・ 涌井貞美 (2013) 『まずはこの一冊から 意味がわかる統計解析』 ベレ出版			
オフィスアワー 開講時にアナウンスする。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 統計学入門程度を復習したうえで受講に臨んでほしい。もし、統計学入門を受講していない学生はわかりやすい統計学入門書を併読すること。また、学生の人数や理解度によっては、教える内容を増減する可能性がある。			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323410) 人的資源管理論B Human Resource Management B	科目区分	時間割 前期金3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	人的資源管理論A	
	履修推奨科目	社会政策A	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、人的資源管理論のうちとくに雇用管理と労使関係管理について扱います。現在、日本の雇用制度が大きく変わろうとしています。それを制度的、理論的に理解することがこの授業の目的です。			
授業の目的 この授業の主な目的は下記のとおりである。 ・日本の雇用制度改革の方向性について理解すること。 ・日本企業の雇用管理について理解すること。 ・日本の労使関係について理解すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の到達目標は下記のとおりである。 ・日本の雇用制度改革についての自分の考えや意見を持つ。 ・日本企業の雇用管理について説明することができる。 ・日本の労使関係について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 期末レポート70点、小テスト30点の100点満点で評価する(小テストの回数によって配分を変更することがある)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 以下の計画は授業の進捗によって変更することがある。 (1) イントロダクション：現代日本の雇用システム改革 (2) 採用管理 (3) 労働時間管理 (4) 失業と雇用調整 (5) 出向と転籍 (6) 高齢者雇用問題 (7) 若者雇用問題 (8) 女性の労働 (9) 雇用ポートフォリオと雇用の多様化 (10) 派遣労働者のキャリア (11) 労使関係論 (12) 労働組合の新しい役割 (13) キャリア管理 (14) 人材育成 (15) 技術者のキャリア ●自学自習に関するアドバイス ・自学自習のためのミニレポートを適宜指示するので、定められた期日に提出すること。			
教科書・参考書等 授業中に適宜指示する。			
オフィスアワー 木曜三時間目。 メールで予約を取ること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・正規の手続きによらない定期試験の成績調査には応じない。 ・パワーポイントのシートは配布しないので、授業中の指示に従ってノートを作成すること。			

ナンバリングコード B3BSN-bdcE-30-Pg2 授業科目名 (時間割コード: 320507) 商品実験 Experiments of Commodities	科目区分	時間割 後期火2~3	対象年次及び学科 3~経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bdcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pg	単位数 2	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目	環境システム論、資源エネルギー論	
	履修推奨科目	商品システム論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 商品が持つ基本的品質について理解を深めるために、実際に様々な商品を用いて実験を行います。			
授業の目的 実験を通じて、身の回りの商品に興味・関心をもつことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品に興味・関心を持つことができる。 ②商品が持つ基本的品質について理解できる。 ③商品について、内容を判断し、自分の意見を構築できる。			
成績評価の方法と基準 出席状況とレポートの内容で評価します。期末試験は行いません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業計画】</p> <p>(1) イントロダクション (2) 食料品の商品実験 1 (3) 食料品の商品実験 2 (4) 食料品の商品実験 3 (5) 食料品の商品実験 4 (6) 食料品の商品実験 5 (7) 食料品の商品実験 6 (8) 商品の原理を考える商品実験 1 (9) 商品の原理を考える商品実験 2 (10) 商品の原理を考える商品実験 3 (11) 商品の原理を考える商品実験 4 (12) 環境を考える商品実験 1 (13) 環境を考える商品実験 2 (14) 環境を考える商品実験 3 (15) まとめ</p> <p>なお、実験内容はサンプルや薬品の入手事情により変更することがあります。</p> <p>【授業方法】 実験を行います。普段から身の回りの商品に興味を持つよう心掛けてください。</p>			
教科書・参考書等 教科書は使用しません。 参考書は随時指定します。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 設備等の都合で受講者数を制限します。詳細については、掲示をご覧ください。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323530) 経営財務論 Corporate Finance	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 嘉本 慎介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 企業は、生産活動の継続・成長を通じて企業価値を高めることを目的として、既存事業の拡大や新規事業の開拓などの事業投資を行う。また、事業投資を実施するために、株式や社債などの証券を発行して市場の投資家から資金を調達する。そして、投資によって創出される価値を、配当・利子といったかたちで資金の出資した投資家に分配する。これらの企業の経営財務に関する活動は企業価値の向上と企業の持続的な成長に不可欠である。 経営財務論では、これらの経営財務活動の中でも、投資の意思決定に関する理論・株式や負債による資金調達や資本構成に関する理論・企業の買収と合併の問題について講義を行う。			
授業の目的 現代企業の財務活動において重要な役割を担う投資・資本構成・配当の意思決定について、理論的な考え方への理解を養成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経営財務論における企業の財務活動に関する考え方を理解できる。 経営財務論における企業の財務活動に関する考え方を応用し、企業の財務活動に関する諸問題について課題を探索することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験によって評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 パワーポイントを使用して、その内容を板書してもらおう形式で講義をする。講義中に演習問題を解いてもらうことがある。 第1-2回目 企業の財務活動 第3-6回目 投資プロジェクトの価値評価と投資の意思決定 第7-8回目 資金調達の方法と金融市場との関係 第9-10回目 資金調達と企業の価値 第11-12回目 資本構成の基礎理論 第13-14回目 株式と負債のエージェンシー・コスト 第14-15回目 企業の買収と合併 注) 授業計画は、進捗状況および受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。 自主学習のアドバイス 自主学習の一例として『コーポレートファイナンスの原理第9版』 2012年 大野薫 (訳) の以下の章を読むことと練習問題に取り組むことを勧める。 第2回目 第1章 第3-6回目 第4章 第7-8回目 第15・20章 第9-10回目 第14・15章 第11-12回目 第16章 第13-14回目 第17章 第14-15回目 第29章			
教科書・参考書等 参考書 『コーポレートファイナンスの原理第9版』 大野薫 (訳) 『コーポレートファイナンス入門編第2版』 久保田敬一他 (訳) 『コーポレートファイナンス第10版 (上)・(下)』 藤井真理子・国枝繁樹 (訳)			
オフィスアワー 木曜日 18:00~19:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中に電卓を使用するので用意しておくこと。 授業中の私語等の迷惑行為には厳しく対処する。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323120) 国際経営論 International Management Global Management	科目区分 専門教育科目	時間割 後期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営学概論、経営戦略論A、経営戦略論B、経営組織論A、経営組織論B、人的資源管理論A、人的資源管理論B、マーケティング論A、マーケティング論B、流通システム論A、流通システムB、中小企業経営論	
	履修推奨科目	調査データ分析	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 国籍や業種を問わず、企業が国境を越えてまたは国境を跨いで生産・販売などの活動を行うのはもはや一般的である。このような国際化している企業（多国籍企業）の諸活動を研究対象とした学問は国際経営論である。本講義では、多国籍企業の諸活動について、理論と実態の両方から体系的に説明し、国際経営論の基礎を学ぶ。			
授業の目的 本講義の目的は、経営戦略論と経営組織論をベースとして、グローバル化する経営の諸問題を理解するための考え方を学ぶことである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①国際経営とは何かを理解すること ②国際経営に関する理論体系を理解すること ③ベーシックな戦略論や組織論の理論を用いて、国際経営に関する諸問題を分析し、その分析結果をアウトプットとして発表できること。 ④将来、国際ビジネスで活躍する時に必要な基礎知識と発想力を身に付けること。			
成績評価の方法と基準 期末試験（100％）により評価する。なお、記述の内容はもちろんのこと、誤字・脱字がなく、読みやすい文章を高く評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。 受講生は日頃から日本経済新聞や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。			
第1回： イントロダクション 第2回： 国際経営とは何か 第3回： 多国籍企業と国家 第4回： 海外直接投資の理論 第5回： 多国籍企業による国際競争の歴史 第6回： 多国籍企業の組織デザイン 第7回： トランスナショナル経営 第8回： 海外子会社の経営 第9回： 国際マーケティング 第10回： ものづくりの国際拠点展開 第11回： 研究開発の国際化 第12回： 国際的な人的資源管理 第13回： 国際パートナーシップ 第14回： 多国籍企業と新興国市場 第15回： 日本企業のさらなる国際のために			
*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義前・講義後には、テキストの関連内容について予習・復習するのを薦める。			
教科書・参考書等 教科書： ・中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。1,800円（教科書は、受講生が各自で入手すること。） また、補足資料を随時配布する。			

参考書：

- ・ 浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日本経済新聞社。2,800円
- ・ 江夏健一・桑名義晴編（2012）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス（三訂版）』同文館出版。3,000円
- ・ 安室憲一（2007）『新グローバル経営論』白桃書房。3,500円
- ・ 吉原英樹（2011）『国際経営（第3版）』有斐閣。2,000円
- ・ 吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣。2,800円

オフィスアワー

特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。

ナンバリングコード B3BSN-bceE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323110) 中小企業経営論 Small Business Management	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 大杉 奉代	関連授業科目 経営戦略論A, 経営戦略論B, 経営組織論A, 経営組織論B		
	履修推奨科目 経営戦略論A, 経営戦略論B, 経営組織論A, 経営組織論B		
学習時間 プレゼン・ディスカッション30分 + 講義60分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義では、「中小企業とは」「中小企業の環境適応マネジメント」「中小企業の資源統合マネジメント」の3つに焦点をあてる。それぞれの理論について考察した上で、実際の戦略展開について説明する。			
授業の目的 中小企業の実態や事例調査などに基づき、実践的な視点で検討を行っていくことの必要性について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
中小企業経営に関する理論を踏まえた上で、中小企業に関する各種データ、ケーススタディ等により中小企業を分析するための知識を身につける。			
成績評価の方法と基準 小テスト・課題の提出: 40%, 期末試験: 60%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 講義最初の30分は、学生による中小企業報告（希望者）と受講者によるディスカッションを行うことで、中小企業に対する関心と理解の向上を図る。			
【授業計画】 第1回: ガイダンス 第1部 中小企業とは 第2回: 中小企業の特徴 第3回: 中小企業の歴史 第4回: 海外の中小企業 第5回: 中小企業問題と中小企業政策 第6回: 第1部まとめ 第2部 中小企業の環境適応マネジメント 第7回: 環境変容と戦略マネジメント 第8回: 分業構造の変容と下請マネジメント 第9回: 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント 第10回: 産業構造の変容と地域産業マネジメント 第11回: 第2部まとめ 第3部 中小企業の資源統合のマネジメント 第12回: 人材難と組織・人材マネジメント 第13回: 後継者難と事業承継マネジメント 第14回: 既存事業の衰退と事業開発マネジメント 第15回: 第3部のまとめと講義のまとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 <予習> 日頃から新聞やインターネットなどを活用し、中小企業の経営活動や経営学に関心をもっておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと。 <復習> 定期的に課題レポートを課すので、それに向けた講義内容の理解を深めておくこと。			
教科書・参考書等 教科書: 井上善海・木村弘・瀬戸正則編著『中小企業経営入門』中央経済社, 2300円+税。 参考書: 1. 高田亮爾・上野紘・村社隆・前田啓一編著『現代中小企業論』同友館, 2940円。 2. 小川英次著『現代経営論～中小企業経営の視点を探る～』中央経済社, 3150円。			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 進行状況に応じて授業計画を変更することがある。私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323490) 株式会社会計 Corporate Accounting 会計基準の国際的な動向を知る	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学総論、監査論	
	履修推奨科目	会計学関連科目	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 現在財務会計制度はめまぐるしく変わっています。世界的に国際財務報告基準（IFRS）というかたちで、会計基準が統一する可能性が高くなりました。現在ほとんどの国と地域でIFRSが採用されており、日本やアメリカも採用またはそれに沿う形での受け入れを検討しています。 このような国際的な動向を把握し、IFRSについて学習することで、グローバル時代における企業経営の変化を知ることができます。その基礎として概念フレームワークなどの概論から、公正価値などの各論に入ります。さらに、統合報告という新しい報告書の開示についても触れます。これは、企業の主要な利害関係者に提供する有用な情報として、従来の財務情報だけでなく、企業の環境・社会活動を含む様々な非財務情報を入れようとする動きです。すなわち、株主・投資家を中心とする利害関係者にとっては現在財務情報に加え非財務情報も投資意思決定に重要な位置づけになっていることを意味するものです。授業では、これらの国際的な開示動向についても触れます。			
授業の目的 ここでは、企業の経済活動に関する情報である財務会計の制度変化について知るために、国際的な会計基準に関して勉強していきましょう。まずは、IFRSの概念フレームワークを検討し、日本基準とIFRSの理論的背景や観点の違いについて勉強します。次に、一つひとつの具体的な会計制度を確認し、基準の違いが実際の経営にどう影響するかを確認しましょう。さらに、近年企業の非財務情報への関心が高まる背景と現状を把握していきましょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 日本の会計制度の基礎を知ることができます。 (2) IFRSの理論的背景と観点を知り、日本の会計基準との違いから日本企業の経営に与える影響を知ることができます。 (3) 非財務情報の開示に関する国際的な動向を確認することができます。			
成績評価の方法と基準 受講態度10%、中間・期末テスト90% (場合によって小テスト、レポートあり)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 内容に関しては、進行状況によって変更することがあります。			
第1回 会計基準の国際的統合 第2回-第4回 国際財務報告基準の基礎 第5回 国際財務報告基準の概要 第6回 会計方針・見積り変更 第7回 収益 第8回 棚卸資産 第9回 有形固定資産 第10回 無形資産 第11回 減損 第12回 企業結合 第13回 企業の社会的責任 第14回 非財務情報の開示 第15回 統合報告			
自学自習の場合は、まず会計学の基礎についての知識を習得してください。その基礎に基づき、より高度な会計理論を確認する作業が必要です。事前に関連分野に関する日本基準について目を通しておくと、国際的な動向との相違を確認することができます。国際会計基準への興味がわくと思います。			
教科書・参考書等 必要に応じて資料を配布します。 参考書 長谷川茂男『IFRS会計講義 (最新版)』中央経済社。			
オフィスアワー 火曜日 13-14:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 成績評価のひとつの判断基準である「受講態度」は出席のことを指すものではありません。あくまで受講時の態度のことです。途中出入りと私語を慎み、静かに熱意をもって授業に臨んでください。なお、講義に集中するために、授業中には筆記道具以外の道具の使用は認めません。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323163) 監査論 Auditing	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 3～経済学部																
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30																
	授業形態 Lx	単位数 2																	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門 会計学総論	株式会社社会計																
	履修推奨科目	簿記入門 会計学総論	株式会社社会計																
学習時間 講義90分×15回+自学自習																			
授業の概要 財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学ぶ。併せて、財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解する。																			
授業の目的 財務諸表監査の基本的な概念と方法論について学ぶ。併せて、財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解する。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力)																			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)																
財務諸表監査の基本的な概念と方法論, 財務諸表監査が経済社会において果たす役割について理解することができる。(知識・理解, 問題解決・課題探究能力)																			
成績評価の方法と基準 期末試験の成績による。																			
授業計画並びに授業及び学習の方法																			
<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>監査:社会的概念</td> </tr> <tr> <td>第2回～第3回</td> <td>監査公準</td> </tr> <tr> <td>第4回～第5回</td> <td>専門能力</td> </tr> <tr> <td>第5回～第7回</td> <td>独立性と職業倫理</td> </tr> <tr> <td>第6回～第9回</td> <td>監査手続と監査証拠</td> </tr> <tr> <td>第10回～第12回</td> <td>監査報告</td> </tr> <tr> <td>第13回～第14回</td> <td>重要性</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>品質管理</td> </tr> </table> <p>授業の進捗度合により上記計画を変更する場合がある。なお、毎回補助プリントを配布する。また、授業内容に連続性が高いため、次回の授業までに授業の内容をしっかりと復習してことが重要である。</p>				第1回	監査:社会的概念	第2回～第3回	監査公準	第4回～第5回	専門能力	第5回～第7回	独立性と職業倫理	第6回～第9回	監査手続と監査証拠	第10回～第12回	監査報告	第13回～第14回	重要性	第15回	品質管理
第1回	監査:社会的概念																		
第2回～第3回	監査公準																		
第4回～第5回	専門能力																		
第5回～第7回	独立性と職業倫理																		
第6回～第9回	監査手続と監査証拠																		
第10回～第12回	監査報告																		
第13回～第14回	重要性																		
第15回	品質管理																		
教科書・参考書等 初回の授業時に指示する。																			
オフィスアワー 授業終了後随時受け付ける。																			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回授業に出席してください。																			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321013) 財務会計論A Financial Accounting A 金融に関連する会計基準を学ぶ	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	簿記入門、会計学総論、財務会計論B、株式会社会計、監査論、金融論、経営財務論	
	履修推奨科目	簿記入門、会計学総論、株式会社会計、監査論、金融論、経営財務論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、銀行のバランスシートの多くを占める金融商品（有価証券、貸出金など）に関連する会計基準に焦点を当て、その概要や関連する専門用語を教授する。また、外貨換算会計や税効果会計といった、銀行と関連の深い会計基準も扱う。さらに、一般事業会社とは異なる特徴を持つ銀行の財務諸表を説明した上で、会計と金融規制の関連まで授業の射程に含める。つまり、本授業は、会計を「浅く広く」扱う会計学総論をベースとして、金融に関連する領域の会計を「狭く深く」扱うものである。			
授業の目的 金融に関連する会計基準の概要や専門用語を理解した上で（DPの「知識・理解」）、それらの会計基準を適用して作成された財務諸表を的確に分析するための基礎力を身に付けることが（DPの「問題解決・課題探求能力」）、本授業の目的である。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 有価証券や借入金（貸出金）などの金融商品について、仕組みや特徴を説明できる。 2. 1を踏まえた上で、金融関連の会計基準の概要や専門用語を説明できる。 3. 銀行の財務諸表の特徴を踏まえた上で、会計と金融規制の関係を説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験60%、レポート40%（20%×2回）によって評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 序盤から中盤にかけては、基本的にテキストに沿って授業を進める。終盤はテキストがカバーしていないため、レジュメを配布する。なお、授業ではテキストを超えた説明を行うことがあり、逆に一部省略することもある。			
(授業計画) 第1回：オリエンテーション、会計の基礎の復習 第2回：公正価値 第3回：金融商品会計（認識、消滅の認識） 第4回：金融商品会計（測定） 第5回：金融商品会計（有価証券の区分と評価） 第6回：金融商品会計（非上場有価証券の評価等） 第7回：金融商品会計（債権） 第8回：金融商品会計（複合金融商品等） 第9回：金融商品会計（デリバティブ、ヘッジ会計） 第10回：金融商品会計（その他の論点） 第11回：外貨換算会計（概要、外貨建有価証券） 第12回：税効果会計（税務と会計の相違および両者の調整） 第13回：税効果会計（概要） 第14回：銀行の財務諸表 第15回：金融規制			
上記計画は受講者数や実際の進捗に応じて変更することがあり得る。			
(授業に臨む上での留意点) 本授業は会計学の専門科目であるため、受講生は会計学の基礎（会計学総論レベル）を理解しているとの前提で授業を行う。また、本授業は「金融商品」の授業ではなく、「金融商品会計」の授業であるため、授業時間中に金融商品の仕組みを一から説明することはない。予習あるいは他の授業を通じて、基本的な金融商品の仕組みや概念（例えば株式・普通社債・借入の特徴、割引キャッシュフロー法の考え方）を、受講生はある程度理解しておく必要がある。つまり、会計学と金融商品に関して一定の基礎知識を持って授業に臨まなければ、本授業の理解は困難である。「効率的」に単位を取りたい人には不向きな授業といえよう。もっとも、現時点でこれらの知識に自信がない者でも、十分に時間を割いて予習を行うならば、授業内容を理解することは不可能ではない。会計学を専門的に学ぶ意欲のある学生の履修を歓迎する。			

教科書・参考書等

【テキスト】

- ・新日本有限責任監査法人編、『金融商品会計のしくみ』、中央経済社
テキストがカバーしていない領域についてはレジュメを配布する。

【参考書】

- ・中央経済社編、『会計法規集』、中央経済社
- ・日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編、『会計監査六法 Lite版』、日本公認会計士協会出版局
- ・中島真志、『入門企業金融論』、東洋経済新報社
(いずれも購入は必須ではないが、購入する場合は最新版を推奨する)

オフィスアワー

初回授業時に指定する。ただし、指定時間以外でも、事前連絡があれば随時学習相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義中の私語やスマホ等の使用（カメラ機能の使用を含む）をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳しく対処する。また、成績調査は正規の手続を踏むこと。

ナンバリングコード B3BSN-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 323686) (特) エンターテイメント・マネジメント Special Lecture	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 森下 信雄 (非常勤講師)	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 我が国エンターテイメント業界の概要と事業戦略について、主として演劇業界を取り上げて解説する。エンターテイメントという「非日常空間」だとか、とにかく華やかさが強調されるが、それをビジネスとして成立させるためには、一般企業と同様に緻密なマネジメント戦略が計画され、遂行されねばならない。具体的には、阪急グループが展開する宝塚歌劇事業を中心に、業界で一世を風靡したAKB48等と宝塚歌劇との比較を織り交ぜながら、エンターテイメント業界の事業及びマネジメントの歴史・現状・そして将来像について理解を深める。			
授業の目的 資本主義・工業化社会の行きづまり・限界が明らかになってきた現代、モノが売れなくなった時代の閉塞感を打破するのは、創り手(作り手)と受け手のコミュニケーションそのものを売買するビジネスであると考え。今回学生が履修するエンターテイメントビジネスがまさにその代表格と言えるわけで、当該授業を履修した結果、ポスト資本主義社会におけるマネジメント理論の基礎を習得し、広範な実務へと応用が可能となるとともに、様々な自己の課題克服のためにチャレンジできる人材を育成したい。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
○エンターテイメントビジネスに関する知識を、自身の抱える様々な全く別の課題の解決に応用できる。 ○プロスポーツ、映画、演劇、音楽といったエンターテイメントを常日頃からビジネスの視点で捉え、その裏側まで考察することができる。 ○授業の内容及びそこで得た知識を「自身の言葉」でわかりやすく説明できる。			
成績評価の方法と基準 小テスト30%、期末テスト70%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
○自学自習について・・・2日目以降の内容については、前日の講義内で予習のポイントを指摘するので、準備を怠らないこと。(小テストの出来にも繋がる。)			
第1回 エンターテイメント・マネジメント論の概要と歴史 第2～3回 エンターテイメント・マネジメント論「総論」 第4～7回 エンターテイメント・マネジメント論「各論」～宝塚歌劇事業戦略～ 第8～9回 エンターテイメント・マーケティング戦略 第10回 コマ・スタジアムの事業再生と梅田芸術劇場の経営戦略 第11回 エンターテイメントとブランド論 第12回 エンターテイメントとコミュニティ～地方創生の視点～ 第13～14回 エンターテイメントビジネスの比較論～AKB48他～及び実務応用論 第15回 本講義のまとめとエンターテイメントの将来展望			
教科書・参考書等 【教科書】 書名 元・宝塚総支配人が語る「タカラヅカ」の経営戦略 著者名 森下 信雄 出版社 株式会社KADOKAWA 出版年 2015年 価格 864円(税込)			
オフィスアワー 講義終了後に設定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ エンターテイメント・マネジメント論を体系的に、しかも企業戦略の実例を交えて学習できる機会は滅多にない。積極的に、主体的に授業に関わり、多くのことを吸収してほしい。			

ナンバリングコード B3BSN-cbdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323687) (特) 実践で学ぶCS・マーケティングA Special Lecture	科目区分	時間割 前期水5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴, 松岡 久美	関連授業科目	経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論A、マーケティング論B、経営組織論A、経営組織論B、経営戦略論A、経営戦略論B、原価会計論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 実社会における事業の実態を学びませんか。本講義は、香川県に本社をおく“あなぶきグループ”と協働で開講するものであり、CS（顧客満足）やマーケティングの側面から、各業界の動向ならびに企業における実務上の課題や問題解決の方法について、現場体験や講義、受講生同士および受講生と同グループの社員が議論を行うことにより学習する。講義終盤では、授業で学んだ内容を踏まえた上で、業界や企業の今後のあるべき方向性について、学生グループによる企画提案を行う。			
授業の目的 企業の付加価値は、市況および競争を見据えた戦略と顧客に受け入れられる価値提供によって成り立っている。本講義では、現場体験や第一線で事業展開に関わっているゲスト講師からの解説を交え、CS（顧客満足）やマーケティングが実際の事業遂行場面でどの様に具現化されているのかを学ぶとともに、今後の事業や企業活動のあるべき方向性について探求することを目的としている（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」「知識・理解」に対応）。さらに、実社会における企業の事業活動をより身近に感じてもらい、受講生が社会に出た際に役立つ経験をしてもらうことを目的としている（学士課程のDP「倫理観・社会的責任」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 新聞や専門誌のマーケティングやCSに関する記事を理解できる。 2. 企業が直面する課題をマーケティングやCSの側面も含めて多面的に理解できる。 3. 課題を発見・探求し、その解決に向けて思考できる主体性や積極的な姿勢が身につく。			
成績評価の方法と基準 成績評価は、以下の4項目の合計点によって行う。 ①毎回の講義ごとに課すレポート (30点) ②最終レポートあるいは最終プレゼンテーション (30点) ③ディスカッションへの貢献度 (30点) ④取組み姿勢 (10点)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 あなぶきグループが展開する3つの事業分野（マンション分譲、その他不動産、ホテル・施設運営部門）を具体的な事例として取り上げ、施設見学、事業展開に関わっている社員からの解説、ディスカッションを1つのモジュールとして授業を実施する。各業界の動向、各業界におけるCSやマーケティングの考え方が事業展開の中でどのように実践されているかを体験する。なお、専門分野の異なる教員2名（宮脇、松岡）も講義に参加し、各専門分野の観点からコメントや問題点の整理、議論の促進などを行うことにより、多面的に理解できるように支援する。			
第1回 イン트로ダクション：グループ事業のイントロダクションと各業界の動向 第2回 マンション事業① モデルルーム等施設見学 第3回 マンション事業② マンション分譲事業（講義） 第4回 マンション事業③ ディスカッション 第5回 マーケティング戦略 第6回 CS (Customer Satisfaction) 第7回 その他不動産① 施設見学（インキュベーション、民泊施設） 第8回 その他不動産② その他不動産に関して（講義） 第9回 その他不動産③ ディスカッション 第10回 ホテル・施設運営部門① 施設見学（エンタープライズ施設） 第11回 ホテル・施設運営部門② ホテル部門（講義） 第12回 ホテル・施設運営部門③ 公民連携事業部（講義） 第13回 エンター部門④ ディスカッション 第14回 学生からの提案発表 第15回 学生からの提案発表・まとめ			
※各講義で取り上げる事業分野や施設訪問については、順番や対象が変更となる場合がある。講義開始時にスケジュール表を配布する。			
【自学自習についてのアドバイス】 各業界の特徴や現状について、自分自身で事前に調べておくこと。			

教科書・参考書等

基本資料は講義ごとに配布する。参考文献等は随時指示する。

オフィスアワー 授業後に質問に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 施設訪問等、学外での活動を伴うため、学研災・学研賠あるいは同等の保険に加入していることを受講の条件とする。
- 班編成によるディスカッションと発表を行うことから、最大募集人数は約60名とする。人員超過の場合は調整を行う。選考手続きについては、掲示板に掲示する。
- 遅刻厳禁。10分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止する。

ナンバリングコード B3BSN-cbdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323688) (特) 実践で学ぶCS・マーケティングB Special Lecture	科目区分	時間割 後期水5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴, 松岡 久美	関連授業科目 経営関連科目		
	履修推奨科目 マーケティング論A、マーケティング論B、経営組織論A、経営組織論B、経営戦略論A、経営戦略論B、原価会計論		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 実社会における事業の実態を学びませんか。本講義は、前期開講の「(特) 実践で学ぶCS・マーケティングA」の後編として、香川県に本社をおく“あなぶきグループ”と協働で開講するものであり、CS（顧客満足）やマーケティングの側面から、各業界の動向ならびに企業における実務上の課題や問題解決の方法について、現場体験や講義、受講生同士および受講生と同グループの社員が議論を行うことにより学習する。講義終盤では、授業で学んだ内容を踏まえた上で、業界や企業の今後のあるべき方向性について、学生グループによる企画提案を行う。			
授業の目的 本講義では、現場体験や第一線で事業展開に関わっているゲスト講師からの解説を交え、CS（顧客満足）やマーケティングの考え方が、実際の事業遂行場面でどの様に具現化されているのかを学ぶとともに、今後の事業や企業活動のあるべき方向性について探求することを目的としている（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」「知識理解」に対応）。さらに、実社会における企業の事業活動をより身近に感じてもらい、受講生が社会に出た際に役立つ経験をしてもらうことを目的としている（学士課程のDP「倫理観・社会的責任」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 新聞や専門誌のマーケティングやCSに関する記事を理解できる。 2. 企業が直面する課題をマーケティングやCSの側面も含めて多面的に理解できる。 3. 課題を発見・探求し、その解決に向けて思考できる主体性や積極的な姿勢が身につく。			
成績評価の方法と基準 成績評価は、以下の4項目の合計点によって行う。 ①毎回の講義ごとに課すレポート (30点) ②最終レポートあるいは最終プレゼンテーション (30点) ③ディスカッションへの貢献度 (30点) ④取り組み姿勢 (10点)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画並びに授業及び学習の方法】 あなぶきグループが展開する4つの事業分野（ハウジング、シニア事業、トラベル事業、人材サービス事業）を事例として取り上げ、施設見学や事業展開に関わっている社員からの解説、ディスカッションを1つのモジュールとして授業を実施する。各業界の動向、各業界におけるCSやマーケティングの考え方が事業展開の中でどのように実践されているかを体験する。なお、専門分野の異なる教員2名（宮脇、松岡）も講義に参加し、各専門分野の観点からコメントや問題点の整理、議論の促進などを行うことにより、多面的に理解できるように支援する。			
第1回 イン트로ダクション：グループ事業のイントロダクションと各業界の動向 第2回 ハウジング事業① 施設見学 PMアカデミー 第3回 ハウジング事業② マンション管理事業（講義） 第4回 ハウジング事業③ ディスカッション 第5回 ハウジング事業④ マンション賃貸仲介事業（講義） 第6回 マーケティング戦略 第7回 CS (Customer Satisfaction) 第8回 シニア事業① 施設見学 シニア施設、ウェルネスシティ高松 第9回 シニア事業② シニア事業（講義） 第10回 シニア事業③ ディスカッション 第11回 トラベル事業① トラベル事業（講義） 第12回 トラベル事業② ディスカッション 第13回 人材サービス事業①クリエアナブキ 講義とディスカッション 第14回 学生からの提案発表 第15回 学生からの提案発表・まとめ			
※各講義で取り上げる事業分野や施設訪問については、順番や対象が変更となる場合がある。講義開始時にスケジュール表を配布する。			
【自学自習についてのアドバイス】 各業界の特徴や現状について、自分自身で事前に調べておくこと。			

教科書・参考書等

基本資料は講義ごとに配布する。参考文献等は随時指示する。

オフィスアワー 授業後に質問に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 施設訪問等、学外での活動を伴うため、学研災・学研賠あるいは同等の保険に加入していることを受講の条件とする。
- 班編成によるディスカッションと発表を行うことから、最大募集人数は約60名とする。人員超過の場合は調整を行う。選考手続きについては、掲示板に掲示する。
- 遅刻厳禁。10分以上遅れた場合、講義の妨げになるので、入室を禁止する。

ナンバリングコード B3BSN-abcE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 323684) (特) Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies Special Lecture Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies	科目区分	時間割 前期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 ロン リム	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 The focus of this course is on the global higher education sector. First, we take a look at the mobility trends of students in the global arena. The class then moves on to probe on the case of Japan. Specifically, we look at the issues and problems Japan faces in her attempt to host international students, and to send Japanese students overseas. We shall then look at some pertinent phenomenon in the global education sector, such as university rankings, and brain-drain. Finally, students shall make country reports at the end part of the semester.			
授業の目的 This course aims to equip students with the knowledge to understand the phenomenon of globalization in the area of higher education. In particular, students shall learn to equip themselves by working in teams to deepen their knowledge on the issues involved.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
At the end of the course, students should be able to… 1. Understand the trends in the sector across the globe 2. Understand the issues and problems faced by Japan in hosting international students, and sending Japanese students overseas 3. Come up with their own ideas on how to respond to those issues mentioned above			
成績評価の方法と基準 Class participation 40% Final presentation 30% Final report 30% (There is no final examination for this course.)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation of the course, expectations of students and lecturer 2. 'Globalization' and what it means in the higher education sector 3. Global Flow of Tertiary-Level Students: some statistics 4. Global Flow of Tertiary-Level Students: some statistics (cont.) 5. Trends in the higher education sector in Japan 6. Trends in the higher education sector in Japan (cont.) 7. Issues and problems faced by Japan 8. Issues and problems faced by Japan (cont.) 9. University rankings 10. University rankings (cont.) 11. Issue of brain drain 12. Issue of brain drain (cont.) 13. Student presentation 14. Student presentation 15. Student presentation <p>The course content may be altered to adapt to the number or learning capacity of the students. International students will also participate in this class. Student presentations are conducted through groups so as to foster interaction and encourage rapport among international and Japanese students.</p>			
教科書・参考書等 Lecture materials are sourced from online data bases and students shall be advised on such links accordingly.			
オフィスアワー Every Tuesday, 13:30-14:30 Prior appointment is highly recommended.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ Class attendance is mandatory. Students are required to prepare for class by reading the material prior to coming for class.			

ナンバリングコード B3SCL-cbaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332200) 異文化間コミュニケーション論 Intercultural Communication	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	言語学概論, 外国語演習, 観光英語	
	履修推奨科目	Communicative English I, II	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 急速にグローバル化する社会の中で異文化との接触やコンフリクトは避けられない。外国や異なる地域と人々との交流や情報の交換(受信, 発信)には常に文化の違いという問題が付きまとうが, 私たちは異文化についての不十分な認識により不要な誤解や失敗を経験することも多い。本講義では, 個人間コミュニケーションにおいて, 文化の違いが引き起こす諸問題について, その発生メカニズムと対応策を考察する。			
授業の目的 個人間コミュニケーションにおいて, 文化の違いが引き起こす諸問題について, その発生メカニズムと対応策を考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 異文化間コミュニケーションにおける誤解や摩擦の原因を理論的に理解できる。 2) 異文化に対する適切な態度や実践的コミュニケーション能力を身につけている。			
成績評価の方法と基準 授業期間中に宿題, レポート課題を出す。また適宜出欠調査も行う。期末試験成績にこれらを加味して, 総合的に評価を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に講義形式(口述+パワーポイント)で行う。 (1) なぜ今, 異文化間コミュニケーションか(ガイダンス) (2) 文化とは何か: 文化の定義 (3, 4) コミュニケーションとは何か: コミュニケーションのメカニズム (5-7) ことばによるコミュニケーション (8-10) ことばのないメッセージ: 非言語コミュニケーション (11-13) 見えない文化: 価値観と文化的特徴 (14) 異なる文化のとらえ方・接し方: 異文化の理解 (15) 異文化との出会い: カルチャーショックと異文化適応			
教科書・参考書等 【教科書】 講義資料(英文, スライド資料)を適宜配布する 【参考書】 Robert Gibson (2002) Intercultural Business Communication, OUP Lustig M.W. & Koester J. (2006) Intercultural Competence (5th Ed.), Pearson. 八代京子ほか(2009)『異文化トレーニングーボーダレス社会を生きる(改訂版)』三修社			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義は日本語で行いますが, 英文資料の読解が必要となります。			

ナンバリングコード B3SCL-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332131) 文化人類学 Culture Anthropology	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	社会調査法	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 文化人類学とは、一言でいえば「他者」を理解する技法である。より具体的には「他者」の有する観念と行動を翻訳する技法である。それは、異文化に対する理解や異なる文化を持つ人々の生活様式を記述し、理解する技法とも言える。本講義では文化人類学の基礎的な理論と方法を習得し、且つ現代社会を理解する上で不可欠なテーマ、宗教、経済、観光、死の人類学などをサブテーマとする。			
授業の目的 この授業の目的は、文化人類学で検討されてきた主要な理論と方法論をたどりながら、文化人類学的な視点・考え方を体系的に学ぶとともに、「他者」を理解しようという文化人類学的視点から、自分自身がもっている思い込みや常識をいったん括弧に括って客観的に見つめ直す作業を行うことにある。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 文化人類学の基本的な視点、考え方、理論を習得する。 2. 文化人類学の視点から具体的な事例を検討することによって、文化と社会の多様性を理解する。 3. 上記のことを通じて、異文化とともに自分の属する社会と文化について深く理解し分析する能力を身につける。			
成績評価の方法と基準 講義中に課すリアクション・ペーパーと学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1週 インTRODクシヨンー文化人類学の共通関心と基本作業 第2週 類人猿とヒトの違いは何か？ー文化の進化・文化の伝播 第3週 衣服の起源は羞恥心からか？ー経済の技術・生活の技術 第4週 「文化的他者」と社会の見方ーイギリスの社会人類学の礎とアメリカの文化人類学 第5週 男になる女になる性をゆさぶる「第三の性」ージェンダー・性別役割・セクシュアリティ 第6週 冥婚・事実婚・同性婚・一夫多妻婚ーさまざまな婚姻のかたち 第7週 血のつながりと「親子の関係」、祖先のつくり方ー世界の家族と親族 第8週 宗教とはなにか？呪いは効くのか？ー宗教の形態、呪術、邪術、妖術 第9週 「異界」のつくりかたー死の表象と霊魂、憑依、シャーマニズム 第10週 なぜ人食いをするのか？ー生と死、カニバリズム、死の人類学 第11週 人がなぜ人の首を狩るのか？ーアジアにおける首狩りの社会史 第12週 なぜ「贈り物」と「お返し」をするのか？ー贈与と交換、経済人類学 第13週 日本はどのようにから語られたか？ー海外の文化人類学的・社会学的日本研究 第14週 「文化」の売り方と買い方ー民族と観光、観光人類学 第15週 まとめ			
教科書・参考書等 ハンドアウトを配布する。 参考文献は講義時に適宜紹介する。			
オフィスアワー 火曜日4時限、南キャンパス2号館3階。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中にリアクション・ペーパーの執筆を課す回がある。 授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。			

ナンバリングコード B3SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332030) ヨーロッパ文化論 European Culture	科目区分	時間割 前期月1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ思想史	
	履修推奨科目	外国語演習、比較近代化論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 中世から近現代にいたるヨーロッパ文化の変遷をたどる。文学、絵画、彫刻、建築、音楽、映画などの芸術作品の一部を觀賞しながら、各時代の思想や社会状況との関わりを考察する。			
授業の目的 ヨーロッパについての理解を深める。ただし、「ヨーロッパ」なるものがあらかじめ存在しているとは考えず、まず「ヨーロッパ」とは何か、しかも「我々」にとって「ヨーロッパ」とは何かについて考え、そのうえで「ヨーロッパ文化」に属する具体的な作品を鑑賞する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
世界史の大きな流れをつかんだうえで、ヨーロッパの文化をよく知る。芸術作品の見方・読み方を身につける。自分が所属する文化との違いに気づく。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席、毎回のミニレポート)30%、中間レポート(4,000字程度)30%、学期末試験40%により、総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業は必ずノートを取りながら聞く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、自分の関心・疑問を明確化する。授業時に紹介される参考文献、音楽(CD)、映画などの作品はできるだけ事前に観たり聴いたりしておく。			
【授業計画】 (1) イントロダクション(本講義の概要、授業の進め方、単位の取り方など) (2) 十字軍時代まで (3) ルネサンス(1) (4) ルネサンス(2) (5) 17世紀(1) (6) 17世紀(2) (7) 18世紀(1) (8) 18世紀(2) (9) 中間試験 (10) 19世紀(1) (11) 19世紀(2) (12) 20世紀(1) (13) 20世紀(2) (14) 21世紀 (15) 文化の歴史/文化と歴史(まとめ)			
教科書・参考書等 授業時にプリント等配布する。 参考文献については随時指示する。			
オフィスアワー 木曜日4時限目。南3号館2階。ただし授業時に相談すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 専門用語等はできるだけ平易な解説を心がけます。雑学的知識よりも問題意識を持つことを学んでください。			

ナンバリングコード B3SCL-abdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332151) ヨーロッパ思想史 History of European Thought	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bdaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 斉藤 和也	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ社会経済史、文化社会論、近代経済史	
	履修推奨科目	人間論、近代経済史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この講義では、西洋における社会思想の展開をたどる。まず、古代ギリシアにおける社会思想の発展を促した社会的・政治的な発展を考察する。古代アテナイの歴史は、民主政の発展の歴史であるが、同時にそれは民主制を批判する思想との対抗の歴史でもある。ソフィストとソクラテスの対抗を序曲として、プラトンの理想国家論、アリストテレスの国制分析論が展開される流れを概説する。次に、古代及び中世における自然法思想の展開について考察する。さらに、近代国家成立の理念としての社会契約説の特質を中世の自然法思想と対比することによって明らかにする。最後に、経済学の父、自然的自由の体系を追求したアダム・スミスの道徳・経済思想について触れます。			
授業の目的 ヨーロッパ思想の特質を理解するために、古代ギリシアから近代までの社会思想の流れを自然法と社会契約論の観点から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 古代ギリシアにおける政治的発展と社会思想の展開との関係を説明することができる。 2. 自然法を軸に、古代から中世を経て近代に至る社会思想のつながりを説明することができる。 3. 近代における社会契約論の考え方とその諸形態について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 レポート2回(50点)課す。レポートの課題と提出日は講義の中で通知する。急病などの理由なしに提出が遅れた場合は減点する。期末試験の配点は50点。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
I. 古代ギリシアの社会思想 (第1回～第6回) (1) ポリスの発展と民主政の形成 (2) ソフィストとソクラテス (3) プラトンにおけるアイデアと理想国家 (4) アリストテレスとポリスの分析 II. 自然法思想の展開 (第7回～第9回) (1) ストア派と自然法 (2) キリスト教神学と自然法 III. 近代における社会契約論の成立と展開 (第10回～第15回) (1) ホッブズの社会契約論 (2) ロックの社会契約論 (3) ルソーの社会契約論 (4) アダム・スミスの道徳・経済思想			
【授業及び学習の方法】 一方的な知識・情報の提供は避けるために、時々、講義に対する質問や意見を書いてもらい、それに答えるという形で、授業を進めていく。すべての質問に答える時間はないので、内容的に重要な質問に対して、次の時間に回答する。 各回の授業が終わったあとで次回の授業のハンドアウトを配布する。熟読してくると授業内容がよく理解できる。病欠の場合は、教員研究室まで次回のプリントを受け取りにくること。			
教科書・参考書等 ハンドアウトを配布する。			
オフィスアワー 木曜 14:40- 15:30 : 斉藤研究室(経済学部7号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 人間論を受講していることが望ましい。履修上の問い合わせは、メールで。アドレスは、初回の講義時にお知らせします。			

ナンバリングコード B3SCL-abcE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332042) アジア社会論 Asian Society	科目区分	時間割 前期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 かつて(主に1930年代に)朝鮮半島から中国東北へ移動した人々は、中国国籍をもつ中国の少数民族として生きてきた。彼らを中国朝鮮族ないし朝鮮族と呼ぶ。彼らの子孫が、1990年代以降、韓国・日本へ大量に再移動するようになっている。このことに注目し、今日の彼らの移動と生活について、(1) 彼らの歴史、(2) 国際関係論・国際政治学における国際移動を取り扱う理論研究、(3) アンケート調査(量的調査)、(4) 質的調査(聞き取り調査)のなどの視点・方法から講義を行う。			
授業の目的 第一に、社会科学の方法論をもってアジアに見られる移動現象を観察する視点を養う。 第二に、アジアにおける国際移動と歴史的・今日的諸問題について理解し、関心を持つ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会科学の方法論をもってアジアに見られる移動現象を観察する視点を養う。 2. アジアにおける国際移動と歴史的・今日的諸問題について理解し、関心を持つ。			
成績評価の方法と基準 中間テストと期末テストを総合し決定する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 毎回の授業は、テキスト(教科書)に沿って講義を行う。テキストは研究書であるため、基本的な事柄(地理や史実など)については説明記載がない。講義では、高校までに学んだ知識を確認・補完しながら、講義を理解するために必要な基礎事項について説明を行ったうえで、日本・中国・韓国の公的機関の発表する統計データ、アンケート調査(量的調査)・聞き取り調査(質的調査)の調査結果など、資料を多く掲載したの研究書をテキストとして、中国朝鮮族の国際移動と生活について講義する。 第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 中国朝鮮族の歴史と現状(テキスト第1章) 第5回～第7回 国際関係論・国際政治学における人の移動を説明する諸理論(テキスト第2章) 第8回～第10回 中国朝鮮族に対するアンケート調査(量的調査)(テキスト第3章) 第11回～第15回 中国朝鮮族に対する生活史の聞き取り調査(質的調査)(テキスト第4・5章) ※毎回の出席はとらない。 ※授業中に行うテストは、実施2週間前に授業中に案内を行うほか、掲示でも周知する。病欠等、正当な理由があつての未受験者は、代替試験を申請できる(診断書等の証明書類を添付すること)。その申請期限はテスト実施の1週間後までとし、申請方法等は掲示で案内する。 ※テストでは指定テキスト(教科書)のみ持ち込み可とする(持ち込まなくてもよい)。			
教科書・参考書等 宮島美花『中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活』(国際書院、2017年)(3,400円+税)をテキストとして使用する。大学生協書店で1割引で購入できる。			
オフィスアワー 毎授業時間後に質問を受け付けるほか、研究室でも対応する。ただし、会議等で不在にする場合もあるので、事前に申し出て約束することが望ましい。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中に行うテストについて、実施2週間前に授業中に案内を行うほか、掲示でも周知する。			

ナンバリングコード B3SCL-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332031) 現代フランス研究 Modern French Studies	科目区分	時間割 後期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目	ヨーロッパ社会論 その他ヨーロッパ関連の科目	
	履修推奨科目	文化社会論、ヨーロッパ社会論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 現代社会において、異なる文化を背景にもつ人間集団の交流や衝突がどのような意味をもち、社会生活にどのような影響をもたらすのかを考察する。 フランスでは、1995年と2015・16年に大規模なテロ事件が発生し、2005年には社会的・経済的困難を抱える住民の多い地域で「都市暴動」が発生するなど、ほぼ10年おきに大きな社会変動がおこっている。しかしメディアの情報だけに頼ってはいは、なぜこのような出来事が起こるのかについて、本当の原因を明らかにすることはできない。 根本的な課題として、歴史的な階級社会・多文化社会であり、出身、外見、性別、住所などを理由とする差別が根強く残っていることが挙げられる。とくに20世紀以降、諸外国からの移住労働者が発展の土台となり、とりわけ旧植民地出身者が、戦力・労働力として大きな役割を果たしてきた。その移住・定住の歴史にもかかわらず、現代において社会的・経済的格差や差別のために排除されているのは、多くが北・西アフリカ諸国の出身者や、その子孫のフランス人である。 以上のような現代フランスとアフリカ大陸の旧植民地諸国の歴史的関係、人の交流と移動を事例に、異なる文化の間の差異や軋轢が社会にどのような課題を提示しているかを検討する。そこから、異文化間のコミュニケーションの課題と方法を考察する。 【他の授業科目との関連】 ・「ヨーロッパ社会論」：ナショナリズム概念の基礎知識と現代ヨーロッパの社会変動について広い視野で学ぶ。 ・本講義：旧植民地・宗主国関係を、北・西アフリカからフランスへの移住者の位置づけをもとに考える。			
授業の目的 植民地関係について客観的に考えられる。 異なる文化をもつ「他者」との交流や多様な文化同士の接触の課題が分かるようになる。 人が移住する原因・移住先での課題・受け入れる側がすべきことが分かる。 市民社会の一員として、異なる文化的・社会的背景の人と主体的にコミュニケーションできる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
植民地関係について、感情的ではなく客観的な視点をもって説明できる。 異なる文化をもつ人間集団の折衝、「他者」との交流や多様な文化の接触に関心をもつ。 現代社会の人の移動の原因、移住先での課題、受け入れ側が心がけるべきことを説明できる。 市民社会の一員として、異なる文化的・社会的背景の人と主体的にコミュニケーションできる。			
成績評価の方法と基準 ①授業中の小レポート (30%)、②中間レポート (30%)、③期末試験 (40%) などにより総合的に評価する。 ①、②、③のいずれかの要素が不足していたり、そろっていても理解度、習熟度が極端に不十分な場合は、単位は認定されない。講義をもとに、自分で疑問をもち、問いを立ててそれについて調べたり読んだりし、議論を展開する訓練をどれだけ積んだかが評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業および学習の方法】 ・基本的に講義が中心になる。テーマに関連する映画や映像資料、教員が現地調査中に収集した写真や映像資料を使用することもある。 ・毎回、課題への回答、感想、質問などを小レポートにまとめてもらう。それをもとに次回の授業で質疑応答とテーマに関する議論をしたい。 【重要】 講義内容を覚えるだけでは、この講義の目的は完全には達成されない。受講者は自分なりの疑問をもち、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、文献を探して読むなど、自分で積極的に調べ、読み、行動し、考えることが求められる。そうした努力は、このシラバスを読んだ日から、始めておくことが望ましい。			

【授業計画（変更の可能性はある）】

- 1) イントロダクション～2005/17年フランスー1
- 2) 2005/17年フランスー2
- 3) 西・北アフリカの歴史と現代ー1
- 4) 西・北アフリカの歴史と現代ー2
- 5) 植民地関係と移住ー1
- 6) 植民地関係と移住ー2
- 7) 植民地関係と移住ー3
- 8) 家族の定住・女性の活動ー1
- 9) 家族の定住・女性の活動ー2
- 10) 第2世代の地位ー1
- 11) 第2世代の地位ー2
- 12) 第2世代の地位ー3
- 13) 統合政策と差別対策ー2
- 14) 統合政策と差別対策ー1
- 15) まとめ

教科書・参考書等

ハンドアウトを配布する。

参考書：園部裕子、2014『フランスの西アフリカ出身移住女性の日常的実践—社会・文化的仲介による「自立」と「連帯」の位相』、明石書店

その他、講義中に紹介する。

オフィスアワー

質問は講義後に随時受け付ける。

オフィスアワー：講義中に指示する。予めメールで予約すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・最初の授業には必ず出席し、講義の流れと注意点を把握すること。
- ・やむを得ない事情で欠席する場合は連絡すること。授業中の小レポートの提出状況が著しく良くない、中間レポートを提出しなかった場合、それ以降の受講・期末試験受験資格はないものとする。
- ・映像資料を見る間に居眠りする者は、欠席扱いとする。
- ・講義中の出入り、携帯電話などの操作は慎むこと。受講態度が改善されない場合、学期中でも受講を断る。

ナンバリングコード B3SCL-bcaE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332034) 中国文化論 Chinese Culture 台湾の伝統と現代	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	アジア文化論、アジア経済論、アジア社会論 外国語演習(中国語)	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 X 15回+自学自習			
授業の概要 この授業では、日本と関係の深い台湾の文化と社会についてについて、伝統文化（原住民文化と中国系文化）、日本からの移植文化、戦後の文化政策、台湾の現状について、政治的背景と関連させて解説する。			
授業の目的 台湾は訪日観光客数でも上位であり、また日本人の旅行先としても人気がある。日本と台湾は特に20世紀以降大きな、しかし複雑な関係を持ってきた。一般に中国と台湾の文化を混同して理解している人が多いが、日本統治の50年間を挟んだ台湾の文化は、多種の文化の集合体である。この授業を通して、台湾文化を多面的に見ることで、日本文化の特徴を再認識したり、日本と全く異なる台湾に対するイメージを認識することができる。(DPの「知識・理解」に対応) 中国語文化圏の一つとして台湾について学び、文化政策と政治の関係を知ることで、台湾の課題について考える。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1 两岸問題の経過と現状について最低限の背景と周辺への影響を説明できる。 2 台湾の文化を切り口に、中国の伝統的な文化、制度について認識することができる。 3 台湾の実例学習を通して、文化と政治について自分の身近な問題として捉えられる。			
成績評価の方法と基準 数回のレポートの得点に出席率を乗じたポイントで判定する。 忌引・疾病による出席停止・交通機関の運休などにより欠席した場合、レポート提出上の配慮はする。ただし、これらの場合も含め欠席が5回を超えた学生は成績評価対象としない。(これ以内でも欠席が多かったりレポート不提出が多い場合は、自動的に合格点に届かない)			
なお、受講者がレポートによる評価に対応が難しいほど多数だった場合、および講義内容についてノート筆記・復習や、理解を深めるための自主的な知識補充が全体的に行われていない判断される場合、試験による評価に切り替えることがある。6月末までに決定する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義形式で行い、教科書は使用しない。			
この講義は以下の内容で行うが、順序などについては変更される場合がある。			
第1回 台湾地誌 第2回～第5回 中国と台湾（現在の两岸関係の形成と、文化的な意味） 現在の中華人民共和国と中華民国の間の所謂「两岸関係」について (参考教材予定：台湾海峡の現在)			
第5回 台湾原住民の文化 第6回～第9回 清以降の中国伝統文化 (1) 歴史的な教育法と科挙制度 (2) 近代以降の試験制度とその加熱 (3) 台湾の宗教と祭祀 (参考教材予定：熱帯魚)			
第10回～第14回 政治と文化 (1) 日本統治時代の文化政策 (2) 反日・反共の文化政策 (3) 文化大革命と中華文化復興運動 (4) 民主化後の文化政策—多元化と日本時代の評価の変化 (5) 文化をコントロールするものは何か—政治とメディア (参考教材予定 魯氷花)			
第15回 アジア以外の地域にとって、「中国」とは何を意味したか？			

教科書・参考書等

教科書：特に使用しない

参考書：tba

オフィスアワー 金曜3時間目、研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 1 座席指定とする予定なので、最初の授業に必ず出席すること
- 2 30分以内の遅刻者は指定するエリアの座席に着席すること（他の座席にいた場合出席票 は交付しない）
- 3 文字化が難しいもの以外は資料配布はしないので、きちんとノートを取る事。カメラ（機能）での板書および映像資料の撮影は認めない。
- 4 講義中の出入り・スマートフォンなどは電源を切ったうえ鞆の中等にしまうこと。机上 机の下などを問わず、使用している場合出席票を没収する。（留学生が日本語の理解のため電子辞書などを使用する場合はこの限りでない）
- 5 映像資料使用中の居眠りなどの場合も3と同じ処置を取る。
- 6 「高学年教養科目」として履修する場合も、2年次以上の学生のみ受講できる。

ナンバリングコード B3GE0-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331101) 観光と政治 Tourism and Politics	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 大賀 睦夫	関連授業科目	政治学概論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業は、観光現象に政治学・行政学的にアプローチすることによって、観光という複雑な研究対象の一側面をクリアーに理解しようとするものである。観光をめぐるでも、他の多くの領域と同じように、意見や利害の対立・紛争が生じる。そのような問題を本授業では扱うことになる。			
授業の目的 観光においても政治的問題がある。たとえば、地域の歴史や文化を生かして魅力ある観光地をつくるにはどうしたらよいか考えてみよう。美しい景観をつくりだすために、建物の高さ、色、デザイン等を規制する必要があるだろう。屋外広告物の色彩や大きさ、掲示場所等の規制も必要になるかもしれない。そのような規制は最低限の規制と思われるかもしれない。しかし、それを実行に移そうとすると、たちまち利害関係者からの反対が起きる。不動産価格が下がる、観光より生活がだいじだなどの声である。それをどうのりこえていくのか。そのような問題をひとつひとつ見ていくうちに、学生諸君の知識もより地に足のついたものになっていくであろう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光先進国における政治の役割を理解する。 2. 日本の観光行政史の概要を理解する。 3. 観光における政府の役割について自分の意見をもつことができる。			
成績評価の方法と基準 出席 (10%)、レポート (20%)、期末試験 (70%) による。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 ハンドアウトを毎回配布する。できるかぎり視聴覚教材を使いたい。 (1) 導入 (2)～(4) ヨーロッパの景観コントロール (5)～(6) 日本の景観行政史 (7)～(8) 観光とライブラリー・ポリティクス (9)～(11) 観光と地方自治 (12)～(13) 歴史的都市の風景計画 (14) 景観法の成立 (15) まとめ			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 参考書は、香川大学経済学部ツーリズム研究会編『観光学のアプローチ』2009 (本書の内容はインターネットで見ることができます。)			
オフィスアワー 金 6			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 時間厳守。授業開始から15分経過後は入室できない。			

ナンバリングコード B3GE0-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331120) 芸術観光論 Art Tourism	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 芸術と観光について考察する。海外や国内の音楽祭や芸術祭、そこで取り上げられる作品などを中心に紹介・考察する。			
授業の目的 芸術への理解を通して、観光と文化に関する基礎知識を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
芸術祭や音楽祭と観光の関係について知ることができる。 バイロイト、ザルツブルク、ヴェローナなどの音楽祭の背景を知ることができる。 モーツァルト、ワーグナー、ヴェルディなどの有名なオペラの概要を知ることができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験の成績が評価の中心となる(約90%)。レポートについては、講義時に触れる。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記が中心。プリントを随時配布し、映像も鑑賞する。 第1回: 音楽祭や芸術祭と観光 第2～6回: ザルツブルク音楽祭とモーツァルト、R. シュトラウス 第7～9回: ヴェローナ音楽祭とヴェルディ、その他の野外音楽祭 第10～14回: バイロイト音楽祭とワーグナー 第15回: まとめ			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。参考書は随時紹介する。			
オフィスアワー 木曜日 4時限目、またはメール等での相談。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 他の受講者の迷惑になるので、私語は厳禁。若いうちに、いろいろな芸術にも積極的に接して欲しい。			

ナンバリングコード B3GE0-abdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 333180) 観光英語 Tourism English 英語で紹介する日本文化	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bdaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	外国語演習 I, II (英語)	
	履修推奨科目	異文化間コミュニケーション論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 NHKの日本紹介番組 (Begin Japanology, Trad Japan), 英文の観光ガイドブック (Lonely Planet, Michelin Guide), 香川県観光広報DVD『瀬戸の美』などを教材として用い, 外国人観光者に英語で観光スポットの見所や日本文化について案内をするための表現を学習する。			
授業の目的 ボランティア通訳ガイドや国際交流活動がスムーズに行え, 通訳案内士試験1次(英語)を受験できる程度の英語力の養成を目標とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日本の歴史, 文化についての深い知識を持ち, 外国人に平易な英語でわかりやすく説明できる。 2. 英語話者とのスムーズなコミュニケーションに必要な4技能(読み, 書き, 話し, 聞き)身につけている。			
成績評価の方法と基準 授業への出席, ディクテーション課題, ライティング課題の提出(以上40%), 期末試験(60%)により総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
テキストの講読(Reading), ディクテーション活動(Listening), ロールプレイ(Speaking), 観光地の紹介(Writing, レポート課題)			
(1) ガイダンス (2) Katsura Rikyu (3) Green Tea (4) Potted Trees (5) Fish Country (6) 中間テスト1 (7) Lacquer Ware (8) Castles (9) Tatami (10) Yoshoku (11) 中間テスト2 (12) Tea Ceremony (13) Kaiseki (14) Soba Noodles (15) Shrines 上記テーマは変更される場合があります。			
教科書・参考書等 授業内およびMoodleにおいて教材プリントを配布 The Green Guide to Japan, Michelin, 2009 Lonely Planet Japan, Lonely Planet, 2009 講談社インターナショナル「英語で話す」シリーズ DVD『瀬戸の美』(岡山県・香川県観光協会)			
オフィスアワー 火曜3, 4校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ガイダンス時に, 授業の進め方の説明と次回の教材(宿題)を渡しますので, 必ず出席してください。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332462) 外国語演習Ⅱ (英語) Foreign Languages II 時事英語	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	Communicative English I-IV, ビジネス英語	
	履修推奨科目	アメリカ社会論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (週3時間)			
授業の概要 アメリカの社会, 経済などの時事問題について, アメリカのニュース放送を視聴しながら学習する。聞き取りの訓練も行う。			
授業の目的 アメリカの社会, 経済などの時事問題に関するニュース放送を視聴し, 実用英語の読み聞きに習熟することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 英字新聞やニュース映像の内容を概ね理解できる程度の英語読解力, 聞き取り能力の習得している。 2) アメリカの社会・経済が抱えている問題を理解できる。 3) TOEICで50～100点のスコアアップを目的とする。			
成績評価の方法と基準 毎週の課題提出および中間・期末試験の成績を総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 一週間前にテキスト (プリント) を配布するので, 授業までに音声ファイルを聞いてディクテーションおよび日本語訳を行う。自宅学習は毎回3時間程度を想定している。授業では, テキストの内容を確認し, 自ら修正したものを毎回提出する。 (1) ガイダンス (2)～(5) 聴解・読解演習 (6) 中間試験1 (7)～(10) 聴解・読解演習 (11) 中間試験2 (12)～(15) 聴解・読解演習 (16) 期末試験 希望者を対象にEnglish Cafeにおいて, 毎回のトピックの理解を深めるための学習会を行う予定です (曜日, 時間はEnglish Cafeのスケジュールで確認してください)。			
教科書・参考書等 【教科書】アメリカのニュース番組 (NBC Nightly News) のほか, インターネットニュースなどを教材とする。 【参考書】適宜, 指示する。			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回授業において, 授業の進め方についての重要事項を説明し, 次回の課題 (宿題) を出すので, 必ず出席すること。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332463) 外国語演習Ⅱ (ドイツ語) Foreign Languages Ⅱ	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ドイツ語の初級文法で1年次に学習した事項を復習し、学習しなかった事項も学びながら、ドイツ語の読解力や理解力を養成する。今年度は映画『舞姫』を題材に、より実践的なドイツ語力の養成も目指す。			
授業の目的 ドイツ語の初級文法を修得する。初歩的なドイツ語の読解力を確実に身につける。映画を通してドイツ語の聞き取り能力も身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
平易なドイツ語の文章が読めるようになる。 平易なドイツ語が聞き取れるようになる。 ドイツ語検定試験3級に合格できるドイツ語能力を獲得することができる。			
成績評価の方法と基準 授業への参加状況が評価の中心になるが、試験の成績も含めて、総合的に評価する。 平常点70%、期末試験30%ぐらい。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 77テキストを分担して読み進めていく。 (1) オリエンテーション (2)～(15) 映画を見ながら、テキストを読解する。 (16) 期末試験			
教科書・参考書等 教科書:『舞姫』森鷗外原作、橘好碩編注(朝日出版社)1200円 参考書:『必携ドイツ文法総まとめ-改訂版-』中島・平尾・朝倉著(白水社)など。 初級・中級の学習に耐える独和辞典(『アポロン』、『アクセス』など、1年次に使用した辞書で可)。			
オフィスアワー 木曜5時限目。またはメール等での相談。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 語学は平素の学習が大事なので、予習と出席が必須であることは言うまでもない。 なお、本授業は3年次生以上が対象ですが、すでにドイツ語に習熟しているなどの場合は、相談に応じます。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 332464) 外国語演習Ⅱ (フランス語) Foreign Languages II	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 モリエール フランソワ (非常勤講師)	関連授業科目 代化論	ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ社会論、比較近	
	履修推奨科目 外国語演習Ⅰ	フランス語I, II, III, フランス語会話III, 外	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 テキスト『時事フランス語 2018年度版 À la page - actualités françaises 2018 - 』を用いて、フランスの社会や文化に関する理解の向上を目指す。フランス人の思考法や日常生活を知り、日本人とフランス人の違いについて議論する。			
授業の目的 授業では、身近なトピックを掲載するテキストを通して、生きたフランス語を読み解く力をつける。基礎的な文法事項の復習し、語彙やさまざまな表現を身に付けつつ、フランス語の長文を正確に読み、仏文読解のテクニックを学ぶ。フランスの政治・経済・社会・文化を知ることが目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語の基礎的運用能力の定着を目指すと同時に、フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得する。今現在のフランス人の考え方や直面する社会のことを知る。			
成績評価の方法と基準 平常点 (授業への積極的な参加および宿題)、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。平常点40%、中間試験30%、期末試験30%。少なくとも2/3 (10回) は出席すること。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業の方法】 教科書は全部で20 課あるが、授業ではそのうち半分程度を扱う。詳細については初回の授業で指示する。毎回の授業で読む課の予習復習を必ずする。</p> <p>【授業計画】 第1回 オリエンテーション (この授業の概要、単位の取り方、学習の仕方の説明) 第2～7回 教科書 第1～4課 第8回 中間試験 第9～15回 教科書 第5～9課 学期末試験</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 講読の授業なので、指定されている範囲の文章に目を通し、わからない語彙の意味と用法を調べ、ノートに記入する。その内容を覚え、定期的に復習する。また、事前に教材の文法事項を予習し、練習問題をこなし、不明な点があれば、授業で積極的に質問をする。</p>			
教科書・参考書等 加藤晴久 / ミシェル・サガズ、『時事フランス語 2018年度版 À la page - actualités françaises 2018 - 』、朝日出版社、2,052円(本体1,900円+税) (生協の書籍部にて購入)。			
オフィスアワー 講義終了後			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 読解力と異文化の理解力を養う授業なので、フランス語を学ぶ意欲と、その国について好奇心のある学生を歓迎します。長文を読む・理解することは大変なので、気軽に授業に参加したい学生は望ましくない。難しいことに挑戦する一方、様々なテーマについて議論し、楽しい授業を行うつもりです。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332461) 外国語演習Ⅱ (中国語) Foreign Languages II ビジネス中国語 Business Chinese	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経済面において切っても切れない関係にある隣国中国、日本の多く産業界と何らかの繋がりを持っている。この授業では、ビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なビジネスで使う中国語を学習し、就活や社会に出てビジネスの諸局面で役に立つビジネス中国語を学習する。			
授業の目的 この授業の目的は、ビジネスでよく使われている基本的な表現「自己紹介・出迎え」「打ち合わせ・接待」「商談」「契約」「待遇交渉」、ビジネスレター（引き合いEメール）の作文能力等の場面ごとに別けて、限られた授業回数の中で、基本的文法事項をおさえつつ、実践的なビジネス中国語を運用するための能力を身につけることである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自己紹介、就任・離任など中国語で2分程度のスピーチができる。 2. 中国語で空港の出迎え・会社案内・商談することができる。 3. ビジネスレター（引き合いEメールなど）を書くことができる。			
成績評価の方法と基準 平常点（授業での発音、出席などを評価に加える）40%+定期試験60%。 語学は授業で実践学習することにより成績が向上する。遅刻や欠席なく、出席堅持すること。単位を取得するためには、3分の2以上の出席が必要である。3分の1以上欠席すると定期試験は受けられません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 中国語で自己紹介 第2回 第一課 オフィスを訪ねる 第3回 第二課 レストランに食事に行く 第4回 第三課 銀行にて 第5回 第四課 商談をする 第6回 第五課 宴会のセッティングをする 第7回 第六課 有給休暇を取る 第8回 第七課 フライトを待つ 第9回 第八課 アフターサービス 第10回 第九課 コンテナ輸送 第11回 第十課 待遇 第12回 第十一課 病院にて 第13回 第十二課 国際入札 第14回 第十三課 財務 第15回 まとめ			
教科書・参考書等 教科書三猪正道・金子伸一『やさしいビジネス中国語』朝日出版社 本体2,200円+税 ISBN978-4-255-45136-7 長く中国語を学んでいくために、初級用辞典ではなく初めから中型辞典を購入するとよい。相原茂編集『中日辞典』第3版講談社を強く推薦する。			
オフィスアワー 火曜日12時～13時 南キャンパス2号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ①付属CDを聞きながら、テキスト本文を必ず予習をしてきてください。 ②外国語を習得するには、間違いを恐れず、たくさん口に出して話すことです。 ③最低1年以上の中国語履修歴があるか、相応の中国語能力を有することを履修の条件とします。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332469) 外国語会話 I (ドイツ語) Foreign Language Conversation I	科目区分	時間割 後期月1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 フリアン・ノイマン	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業は日常生活に必要な基礎的ドイツ語会話ができるようになることを目的にする。文法を中心に速く進むことより、学んだ文法を自然に使えるようになることを優先する。言語だけではなく、ドイツ事情(政治・文化・歴史)についても話し合う。			
授業の目的 日常生活に必要な基礎的なドイツ語会話ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
ドイツ語会話の能力を身につけることができる。 ドイツ語の文章が読めるようになる。			
成績評価の方法と基準 評価は試験だけでは行わない。授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。50%は授業中の積極性、残りは口頭及び筆記試験により評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション 第2回～第15回 会話練習・短いテキストの読解・発表 第16回 期末試験			
教科書・参考書等 基本的に印刷資料を用意する。			
オフィスアワー 初回の授業で説明する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 主に会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。			

ナンバリングコード B3SCL-abcE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332470) 外国語会話 I (フランス語) Foreign Language Conversation I	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 V.LECERF (非常勤講師)	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 最初からフランス語で話していきます。話しながら学ぶ。学びながら話す。テキストを沿いながら、話すこと、聞くことの手をつけていきます。フランスの文化や社会問題についても話し合う。			
授業の目的 発話能力と聴解能力を高めることを目指します。質問とそれに対する答えを、自然な流れで言えるようになることを目指します。シンプルな会話をフランス語で適切に行えるようになることが重要です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
授業に出て練習を重ねていきさえすれば、たとえ語彙が少なくても、自然でスムーズな会話がどんどん上手にできるようになります。フランス語で会話ができるようになるために、毎回の授業では習ったことをすぐに試していくこととなります。オラール・コミュニケーションをたっぷりと練習していくこととなります。			
成績評価の方法と基準 毎回の授業のときの様子、出席状況、そして宿題と小テストの得点を総合的に評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストを中心に、単純な構文(質問・答え)でフランス語で話す練習をします。同時に文法も押さえて行く。毎回宿題。 第1～2回: アルファベ、挨拶する、自己紹介する。 第3回: 住んでいるところ、出身地や交通手段について話す。 第4～6回: アルバイト、ペットなどについて話す。 第7～8回: 小テスト。科目・先生について話す。 第9回: 食べ物について話す。 第10～12回: 家事について話す。 第13回: 家族について話す。 第14回: クラブ活動について話す。 第15回: テスト			
教科書・参考書等 "Moi, je... communication" ("モア、ジュ... コミュニケーション") アルマ出版。 注文: http://www.almalang.com 問い合わせ: info@almalang.com Tel: 075-203-4606			
オフィスアワー 木曜日16:10から16:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 自宅学習は毎日音声ポッドキャストを聴き、前回の授業の会話と語彙を声を出してで読む練習すること。解らないとき遠慮なく先生に聞く。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332472) 外国語会話 I (韓国語) Foreign Language Conversation I	科目区分	時間割 後期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 河 智弘	関連授業科目	初修外国語「韓国語」	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 レベルとしては、①初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得した学生を最低サインとしつつ、②初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し終えた学生が引き続き韓国語能力を維持し、特に会話能力を伸ばすことができるような内容までを扱う。 会話は、読み書きできるだけではできません。また、例文を完全に覚えたところで応用ができなければ、会話することはできません。つまり、会話は、基礎文法を学んだ人が、単語の暗記と使用の訓練を繰り返すことでできるようになるものです。文法の復習をしない人、暗記の苦勞を惜しむ人は、会話をできるようになりません。この授業では、履修生の語彙を増やし、覚えた単語や文型を引き出し、ネイティブに通じる発音で発話できるように練習します。			
授業の目的 簡単な会話ができるように多くの語彙・表現を学び、またそれらの発音について練習する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
以下の各項目について、韓国語能力検定2級レベル、ないしハングル能力検定試験4級レベルの内容を身につける。 1. 簡単な会話(日常の簡単な挨拶や自己紹介など)ができる。 2. 語彙を増やす。 3. 韓国旅行時などに必要な基礎知識を学ぶ。(場所や時間の表現・マナー等) 4. 韓国語表現をもとに韓国の文化について理解を深める。			
成績評価の方法と基準 出席状況、宿題を含む授業態度、試験の結果などを総合的に勘案して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 会話を中心とした授業であるので、受講生の積極的な参加を求める。 第1回 イン트로ダクション、授業の概要説明 第2回～4回 会話の基礎 第5回 小テスト 第6回～9回 日常会話(基礎) 第10回 小テスト 第11回～15回 日常会話(応用) 第16回 期末テスト			
教科書・参考書等 初回授業で指示する。 辞書についても授業中の案内に従うこと。			
オフィスアワー 授業後の休み時間に対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。また初修外国語「韓国語Ⅲ」も履修済みであることが望ましい。担当教員(河(ハ))は韓国語ネイティブであるので、積極的に「韓国語で」関わってほしい。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332483) 外国語会話Ⅱ (ドイツ語) Foreign Language Conversation Ⅱ	科目区分	時間割 前期水3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 フリアン・ノイマン	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業はドイツ語での日常会話ができるようになることを目標とするが、初級クラスではないので、ある程度の基礎会話力と文法の知識が受講の前提条件である。重点は発話能力と聴解力に置かれる。まず模範となる対話練習を行い、ついで自由応答の対話練習を行う。 聴解、会話練習を繰り返す。ペアとグループ練習によって会話の実践力を養う。 言語だけではなく、ドイツの歴史、地理、文化、政治、特徴等についても話し合う。 受講者によってレベルを決める。			
授業の目的 ドイツ語での日常会話力の養成。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
中級レベルのドイツ語会話ができる。			
成績評価の方法と基準 授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。80%は授業中の積極性、残りの20%は宿題で評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 会話の練習を積み重ねる。 (1)～(15) 会話演習 (16) 期末試験			
教科書・参考書等 プリント配布			
オフィスアワー 随時、相談による			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Eb2 授業科目名 (時間割コード: 332481) 外国語会話Ⅱ (中国語) Foreign Language Conversation Ⅱ	科目区分	時間割 後期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Eb	単位数 2	
担当教員名 毛 勇 (非常勤講師)	関連授業科目 「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳa」、「中国語Ⅳb」、「中国語会話Ⅲ」		
	履修推奨科目 「社会と文化」、「東アジア論」、「中国文化論」		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業では、LL形式により、場面を想定した自然な会話文を学び、よく使われた会話を繰り返し練習することによって中国語をより確実に自分のものにしていく。			
授業の目的 ヒヤリング・会話を通じて、文章を丸ごと覚え、真似て表現していただくことを重点訓練し、実用中国語能力を養成することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
聴 (Listening) : あらかじめ与えられた200字程度の文章を普通の速度で聴き取ることが出来る ; 説 (Speaking) : ある状況 (日常的な場面) にあわせて基本的な表現が出来る ; 読 (Reading) : 易しい文章を辞書・注を頼りに一定の正確さで読める ; 書 (Writing) : 既習の文法事項を利用した文が書ける ; 会話 (Conversation) : 簡単な日常会話が出来ることが目標とする。			
成績評価の方法と基準 授業参加姿勢 (10%) レポート (10%) 期末試験 (80%) で総合評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生入学 2. 泼水节 3. 苏州园林 4. 综合练习 5. 喝茶 6. 兵马俑 7. 练习跳舞 8. 综合练习 9. 电影少林寺 10. 参观天坛 11. 看京剧 12. 综合练习 13. 参观中国馆 14. 石林观光 15. 漫步艺术区 <p>LL方式で、「聞く・話す・読む・書く」を総合的に訓練するが、とくに「聞く・話す」に重きを置くため、予習の時点でよくCDを聴くように勧める。</p>			
教科書・参考書等 教科書：遠藤光暁ほか「ビジュアル中国」2014朝日出版社。 定価：2,300円+税 参考書：随時指示する。			
オフィスアワー 非常勤なので、オフィスがないが授業中の双方向コミュニケーションを重視し、授業終了後も質問、討論可能である。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 教養教育 (全学共通科目) 中国語4単位以上 既取得者を対象とする。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332486) 外国語会話Ⅲ (ドイツ語) Foreign Language Conversation Ⅲ	科目区分	時間割 後期水3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 フリアン・ノイマン	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この授業は、前期の「ドイツ語会話Ⅱ」の続きである。 ドイツ語での日常会話ができるようになることを目標とするが、初級クラスではないので、ある程度の基礎会話力と文法の知識が受講の前提条件である。重点は発話能力と聴解力に置かれる。まず模範となる対話練習を行い、ついで自由応答の対話練習を行う。 聴解、会話練習を繰り返す。ペアとグループ練習によって会話の実践力を養う。 言語だけではなく、ドイツの歴史、地理、文化、政治、特徴等についても話し合う。			
授業の目的 ドイツ語での日常会話力の養成。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
中級のドイツ語会話ができる。			
成績評価の方法と基準 授業中に積極的に発表するなどの授業参加態度を重視する。80%は授業中の積極性、残りの20%は宿題で評価される。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 会話の練習を積み重ねる。 (1)～(15) 会話演習 (16) 期末試験			
教科書・参考書等 プリント配布			
オフィスアワー 随時、相談による			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 会話の授業なので、積極的な参加態度が求められる。			

ナンバリングコード B30TH-abdE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332510) ビジネス英語 I English for Business I	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 abdE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 E	単位数 2	
担当教員名 WILLIAMS R T (非常勤講師)	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 15 classes. 90 minutes/week. Occasional homework, preparation and review time outside of class will be necessary.			
授業の概要 The general aim of the class will be to learn English that will be required in a business environment. The approach will be mainly conversational and use an active learning model. Students will be required to do a pair project for each unit that will be graded.			
授業の目的 Students will draw on the English that they have already studied, and expand on it to be able to use that English in business. Students will also learn how to write brief reports and develop techniques that they can apply when they need to state their opinions.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
Students will learn the following outcomes from the course: 1. Be able to introduce themselves, their company, and their products in English. 2. Be able to state their opinions in a business setting. 3. Have a basic understanding of vocabulary and expressions used in a business environment. 4. Have a basic understanding of cultural norms as they relate to the language in an English-speaking office environment.			
成績評価の方法と基準 Since this class will follow an active learning model, 25% of the grade will come from attendance and participation. 25% will be from written assignments. 50% will be from a comprehensive final exam.			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1. Orientation and Instructor Introduction. 2. Introductions of students 3. Textbook Unit 1.Meeting people 4. Textbook Unit 1.Developing conversations 5. Pair project for unit 1 6. Textbook Unit 2.Office telephone etiquette 7. Textbook Unit 2.taking and leaving messages 8. Pair project for unit 2 9. Textbook Unit 3.Scheduling 10. Textbook Unit 3.Making appointments 11. Pair project for unit 3 12. Textbook Unit 4.Presenting figures 13. Textbook Unit 4.Numbers and graphs 14. Pair project for unit 4 15. Review for final Exam			
教科書・参考書等 Business Venture 2 Pre-Intermediate Student Book. Roger Barnard & Jeff Cady. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-457818-9			
オフィスアワー Office hours are available by appointment with the Instructor.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ Bring to every class: 1. Your textbook; 2. Paper and pencil/pen; 3. An electronic dictionary or a Japanese to English book dictionary. 受講希望者多数 (50名以上) の場合, 受講調整を行う場合があります。			

ナンバリングコード B30TH-abdE-3N-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332520) ビジネス英語Ⅱ English for Business II	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 abdE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 E	単位数 2	
担当教員名 WILLIAMS R T	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 15 classes. 90 minutes/week. Occasional homework, preparation and review time outside of class will be necessary.			
授業の概要 The general aim of the class will be to learn English that will be required in a business environment. The approach will be mainly conversational and use an active learning model. Students will be required to do a pair project for each unit that will be graded.			
授業の目的 This course assumes that students have taken Business English I. Students will draw on the English that they have already studied, and expand on it to be able to use that English in business. Students will also learn how to write brief reports and develop techniques that they can apply when they need to state their opinions.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
Students will learn the following outcomes from the course: 1. Be able to handle simple to more complex business conversations. 2. Be able to state their opinions in a business setting. 3. Be able to have confidence and handle themselves properly in English in any given business situation. 4. Have a more complete understanding of cultural norms as they relate to the language in an English-speaking office environment, beyond Business English I.			
成績評価の方法と基準 Since this class will follow an active learning model, 25% of the grade will come from attendance and participation. 25% will be from written and verbal assignments. 50% will be from a comprehensive final exam.			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1. Orientation and Instructor introduction. 2. Student business introductions 3. Textbook Unit 5. Product features 4. Textbook Unit 5. Talking about a company and its products 5. Pair project for unit 5 6. Textbook Unit 6. Business decisions. 7. Textbook Unit 6. Explaining rationales. 8. Pair project for unit 6 9. Textbook Unit 7. Dealing with complaints 10. Textbook Unit 7. Solutions and problems solving in the office 11. Pair project for unit 7 12. Textbook Unit 8. Business travel arrangements 13. Textbook Unit 8. Business trips 14. Pair project for unit 8 15. Review for final Exam			
教科書・参考書等 Business Venture 2 Pre-Intermediate Student Book. Roger Barnard & Jeff Cady. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-457818-9			
オフィスアワー Office hours are available by appointment with the Instructor.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ Bring to every class: 1. Your textbook; 2. Paper and pencil/pen; 3. An electronic dictionary or a Japanese to English book dictionary. 受講希望者多数 (50名以上) の場合、履修制限を行う予定です。			

ナンバリングコード B3GE0-ecbE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332171) (特) 地域研究論 Special Lecture	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 ecbE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 昂輝	関連授業科目	地理学B	
	履修推奨科目	地理学B	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 地域研究 (area studies) は、第二次世界大戦の前後、アメリカ合衆国において形成された学際的な研究領域である。戦時中、或いは冷戦中、既存の学問分野 (discipline) の枠組みに捉われない、敵国についての幅広い地域理解が求められ、その結果、地域研究が生まれた。すなわち、地域研究は、基本的には、研究者が所属する国家の外部地域 (海外) についての総合的研究を意味する。今日、地域研究は、国家戦略的な視点から離れ、学問的な関心、世界平和や地域間の相互理解を志向するものである。 本授業では、世界の諸地域についての総合的な理解を目指し、ヨーロッパ、中東、アジア、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアなどといった地域区分に基づき、各地域について講義する。また、こうしたグローバルスケールの地域理解を踏まえ、日本、さらには香川県といったダウンスケールの過程を通じ、身近な地域を捉える視点についても解説する。			
授業の目的 20世紀末以降、国際的な交通網の拡張、情報・通信技術の発達に伴い、グローバル化が進展している。今日の日常生活は、国家、都道府県、市区町村といった既存の地理的スケールの内部には収まらない。海外からの観光客、移民・留学生、さらにはインターネットによる情報検索などを通じ、我々は世界の様々な地域と日常的に結ばれている。こうした現況において、現代日本に暮らす我々には、世界の諸地域に対する正確な理解が求められている。このような考えに基づき、本科目は、世界の諸地域についての総合的な理解を得るとともに、それを通じて、身近な地域についての理解・認識を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域研究の成り立ちや特徴を理解し、説明できる。 2. 世界の地域区分、およびそれぞれの地域の特徴を理解し、説明できる。 3. 身近な地域を様々なスケールのなかで位置づけ、その地域の特徴を説明できる。			
成績評価の方法と基準 平常点：15% 中間試験・その他課題：35% 期末レポート：50% ※ただし、全授業回数数の2/3以上の出席を単位取得の要件とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 導入：地理学・地誌学・地域研究 第2回 世界の地域区分 第3回 地域研究の方法 第4回 ヨーロッパ(1) 第5回 ヨーロッパ(2) 第6回 中東 第7回 アフリカ 第8回 小括 + 中間試験 第9回 南北アメリカ(1) 第10回 南北アメリカ(2) 第11回 アジア(1) 第12回 アジア(2) 第13回 オセアニア 第14回 世界のなかの日本・香川県 第15回 総括 ※ 取り上げる地域、および授業の順番は変更される場合がある。 【自学自習】 ・授業内において、適宜文献を紹介する。授業外の時間をつかって、紹介された文献の講読に努めること。また、新聞、テレビ、インターネット等で国内外のニュースに目を通すこと。 ・授業外において、1週間あたり90分以上の学習時間が求められる。十分な自学自習の時間をとることによって、はじめてこの科目の到達目標を達成することが可能となる。			

教科書・参考書等

教科書：

特に指定しない。適宜プリントを配布するほか、地図帳を使用する。

参考書：

- ・加藤普章編著（2000）『新版エリア・スタディ入門-地域研究の学び方-』昭和堂．2,800円＋税．
- ・野間春雄ほか編著（2017）『ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—（第2版）』海青社．2,700円（税込）．
- ・村山祐司編著（2003）『シリーズ人文地理学2：地域研究』朝倉書店．3,800円＋税．
- ・矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編著（2007）『地理学基礎シリーズ3：地誌学概論』朝倉書店．3,300円＋税．

オフィスアワー 月曜日4時限目（教員研究室：経済学部3号館3階）

※そのほか、事前に連絡をもらえれば、出来る限り対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・この授業では、座席を指定制とする。
- ・教室内では、スマートフォンなどのカメラを使った撮影を一切禁じる。
- ・授業の内外において、地図の読み取りやレポートなどの課題を出します。受動的に授業を聴講するだけでなく、考える力・書く力を身につけることを意識して受講すること。

ナンバリングコード B3GE0-bexE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 333667) (特) 栗林公園ゼミナール Special Lecture	科目区分	時間割 前期火5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bexE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 斉藤 和也, 大賀 睦夫	関連授業科目	観光学概論, 観光と政治, まちづくり論, 人間論	
	履修推奨科目	観光学概論, 観光と政治, まちづくり論	
学習時間 講義90分・フィールドワーク135分 × 15回 + 自学自習(グループ学修)			
授業の概要 香川県の文化財のなかで一番有名なのは栗林公園です。栗林公園は、もともとは大名庭園です。現在もそれが残っていて、全国的にも、また世界的にも有名で、日本で一番美しい大名庭園だと言われています。この授業では、栗林公園の魅力を理解するために、日本庭園に関する基本知識を学び、実際に栗林公園の庭園を見て歩きます。日本庭園を知るとは、自然と共生してきた日本文化をよく理解する上で役に立ちます。			
授業の目的 地域の重要な文化財である栗林公園をよりよく理解し鑑賞するために、庭園に関する基本的な知識を学び、実際に栗林公園を探索することにより、体験と知識に裏付けられた庭園文化の理解を獲得する。また、基礎的な景観論を学び、栗林公園の庭園景観と周辺の都市景観について理解を深める。さらに、これらの知識と体験に基づいて、自分なりの栗林公園の見方を紹介できる力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 栗林公園の構成や造園の歴史を理解し説明することができる。 栗林公園についてグループで調査し、簡単な報告書(レポート)を書くことができる。 栗林公園の楽しみ方について、初歩的なガイドができる。 			
成績評価の方法と基準 平常点30%, レポート70%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 1. 日本庭園史の概要: 飛鳥時代から明治時代までの庭園の歴史を概観する。 2. フィールド: 主に庭園の地割と流れを確かめ、庭園全体を体験する。写真を撮影。 3. 石組とその素材: 日本庭園の石組みの種類と庭石について説明する。 4. フィールド: 主に栗林公園の石組を調べ、庭園の形態的な分析を行う。 5. 植栽と景物 6. フィールド: 主に植栽と景物を調べ、簡単な配置図を作成する。 7. 栗林公園の歴史: 古図に基づいて栗林公園の変遷を説明する。 8. 庭園の政治学: 大名庭園は鑑賞の対象であるとともに社交の場でもあった。 9. フィールド: 改めて公園を散策しながら、庭園の歴史的な展開を想像する。 10. 古地図に見る栗林公園: 江戸時代「御林」はどのような環境のなかにあったか? 11. フィールド: 栗林公園周辺を歩き、江戸期の景観を古地図で確かめる。 12. 景観について: 景観の見方について説明する。 13. グループワーク: グループに分かれてプレゼンテーションについて相談する。 14. 各グループのプレゼンテーション 15. 授業のまとめと小テスト 【自学自習】 フィールド調査の前に調査フォーマットを配布します。それに従って調査します。レポートは添削の上、次の時間に返却します。			
教科書・参考書等 羽野茂雄『一步一景 栗林公園を訪ねる』: 生協で購入してください。			
オフィスアワー 金曜4限(7号館3階: 斉藤研究室)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ フィールドワークは18時45分までです。定員は30名です。選考手続きについては、掲示板に掲示します。			

ナンバリングコード B1GE0-cbeE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 332065) 地域調査法 GIS Research Methods GISの基礎から応用まで	科目区分	時間割 前期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1GE0	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 金 徳謙 (非常勤講師)	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 政府が提供する各種統計データを利用したり、直接フィールドに出かけ調査したりして、(観光)地域を分析した結果を分かりやすく表現するため、多くの場合、表やグラフなどが用いられます。この授業では、それらに加え、GISによるデータの表現や分析の方法について学びます。本授業では、空間的な視点から調査する新しいツールを、概念から始まり使い方までをとりあげ、実践的に学びます。 * Geographic Information Systemは地理情報システムといわれ、空間(地球上の場所)を調べる最新の手法です。近年、観光地の調査やマーケティングなど、様々な領域で利用されています。			
授業の目的 本授業を受講することにより、GISを用いた調査能力および空間的思考方を身につけることができます。地域振興などの自治体や起業など、組織の意思決定はもちろん、一般企業におけるマーケティングなどのため、各種専門的な調査分析は欠かせません。授業では、このような場面に活用できる調査分析手法を学びます。具体的には、空間的視点から地域を分析するGISを、基礎概念から始まり実践的な調査分析ができるレベルまで学びます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
GISに関連する用語の意味が理解でき、正しく使うことができる。 デジタルマップを作成することができる。 国勢調査やその他の統計データをGISで表現することができる。 GISを用いて地域の分析ができる。			
成績評価の方法と基準 授業で学んだ内容を基に、プロジェクト研究を行います。その報告発表(80%)および授業中の課題レポート(20%)などにて総合評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第01回 ガイダンスおよびグループ分け 第02回 GISの導入および位置表示 第03回 データの取得および表示Ⅰ: e-Stat 第04回 データの取得および表示Ⅱ: 国土地理院 第05回 データの取得および表示Ⅱ: 国土交通省 第06回 ファイル形式の理解: csv・txt・dbf形式の理解 第07回 空間分析Ⅰ: 検索と抽出 第08回 空間分析Ⅱ: バッファとクリップ 第09回 空間分析Ⅲ: 融合 第10回 ファイル操作Ⅰ: 結合および演算 第11回 フィールド操作Ⅱ: 結合および演算 第12回 地図の作成とジオ・レフェレンサー 第13回 プリントコンポーザー 第14回 プロジェクト研究のプレゼンテーションⅠ 第15回 プロジェクト研究のプレゼンテーションⅡおよびまとめ			
教科書・参考書等 『観光地域調査法』金徳謙著、美巧社、2,500円(税別)、ISBN: 978-4-86387-075-8			
オフィスアワー 授業終了後。その他にも時間が許す限り対応しますが、事前にメール等でアポイントをとってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、パソコンを操作しながら、実践的に学習します。毎回自分のノートパソコンの持ち込みが必要です。OSはWindowsを推奨しますが、MacやLinuxなどでもOKです。但し、GISソフトの導入を含む説明は、Windowsを基に説明します。 ・授業の後、内容を繰り返し復習することは欠かせません。とても重要です。 ・観光への応用だけではなく、経済分析やマーケティングなどにも応用が期待されますので、この機会に是非身につけてください。 ・受講希望者は事前に教材を購入するか、第1回の授業で購入してください(2,500円税込)。 			